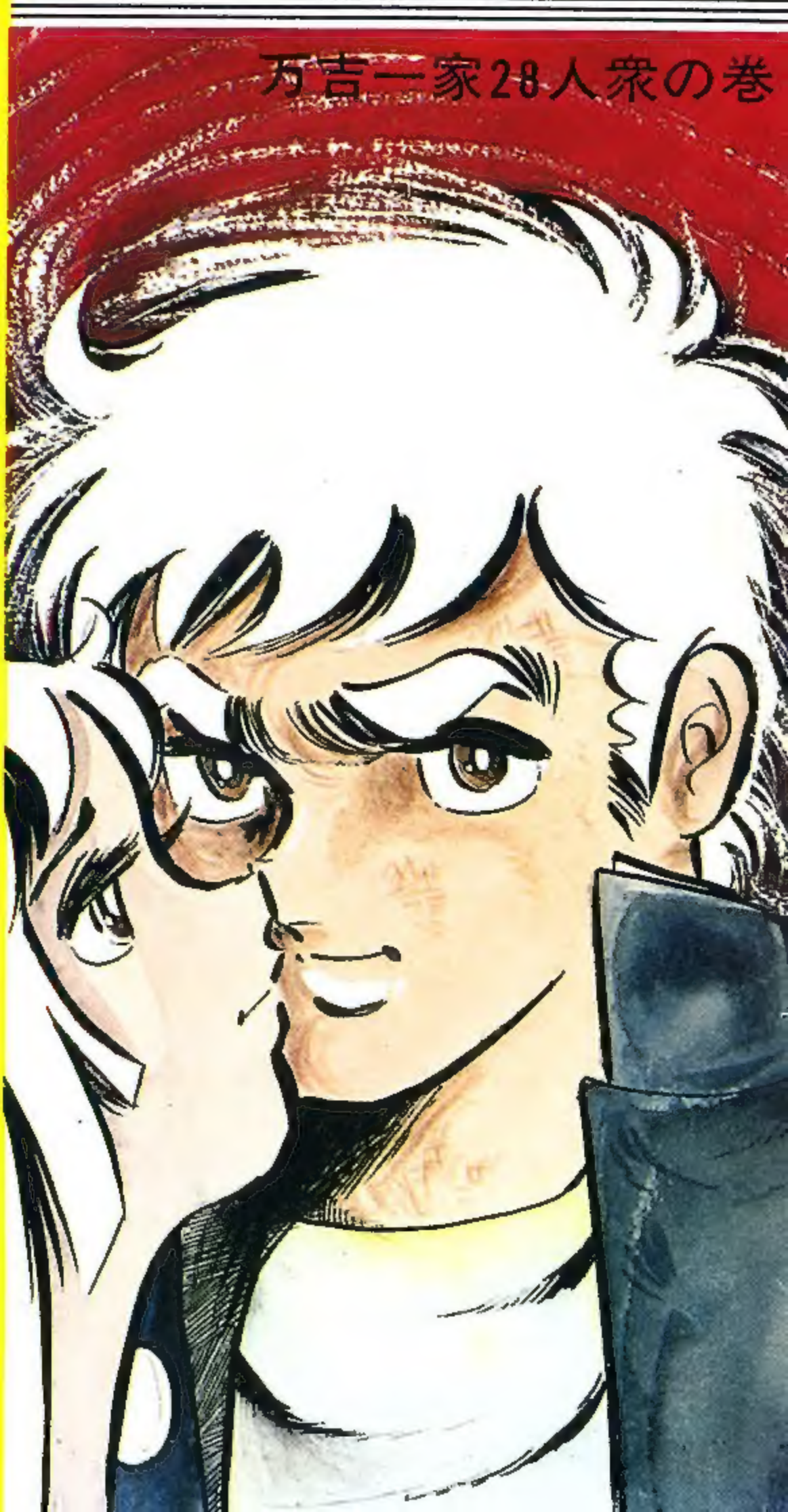
男一匹ガキ大将

万吉一家28人衆の巻

第8巻

本宮ひろ志



男一匹ガキ大将

■万吉一家28人衆の巻

●第8巻●

本宮ひろ志

登場人物紹介と前巻までのあらすじ

戸川万吉は、西海村に一千人の子分をもつ大番長で、ケンカがメシより大好きだ。

浮浪者の総大将・カスミの大三郎と知りあった万吉は、全国の浮浪者を味方に引きいれ、浮浪者の頭・坊屋光五郎までが、万吉の軍師となった。

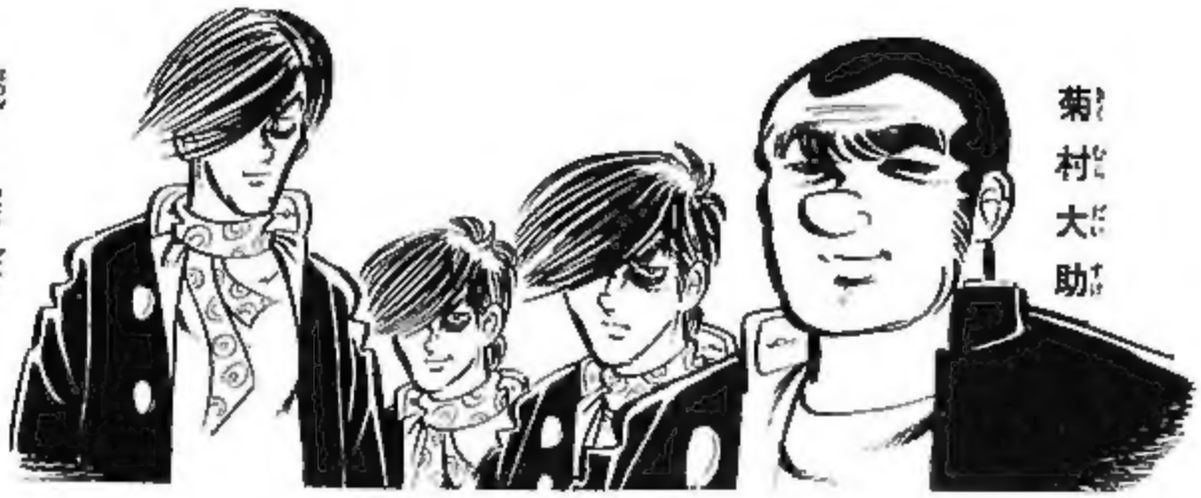
岡野友子の父の会社・岡野建設が、水戸のおばばにのっとられたのを知った万吉の怒りは爆発、男のド根性を大人の世界にたたきつけた。強敵おばばをむこうにまわして、株でおおもうけ、二億円近い大金を手にした。

だが、日本財界の大物・白川宇太郎の悪だくみで、故郷の西海村を焼かれ、あげくのはては火つけ犯人として警察に追われる身とな

あゆみ　戸川万吉

綱村鉄次

ラッパ　ボサ



菊村大助

炎三兄弟

り、赤姫山に籠城した。さんざん警官隊を悩ました結果、子分たちと自首した。

有罪となった万吉は銀次、綱村と特等少年院へ……。連日すさまじいリンチにあいながらも、影の総部屋長・鬼頭政次に挑戦、特少を支配する悪いおきてを破っていった。やがて出所をゆるされた万吉たちは、晴れて西海村へ帰っていった。そしてこんどは日本全国をまたにかけて、男をさがすよう銀次・綱村・松川たちに命令した。

万吉は、なにをたくらみ、なにをしようとしているのか!?

土佐の源蔵

どんごろすのジェンマ（左）

まんじゅう屋藤助（右）

眼帯の銀次　　松川幸太郎

男一匹ガキ大将⑧

万吉一家28人衆の巻

目次

土佐の源蔵の巻……8
まんじゅう屋藤助の巻……18
どんごろすのジェンマの巻……40
炎三兄弟の巻……69
九州男児・菊村の巻……94
友子とあゆみの巻……120
うらぎり者万吉の巻……148
綱村怒るの巻……172

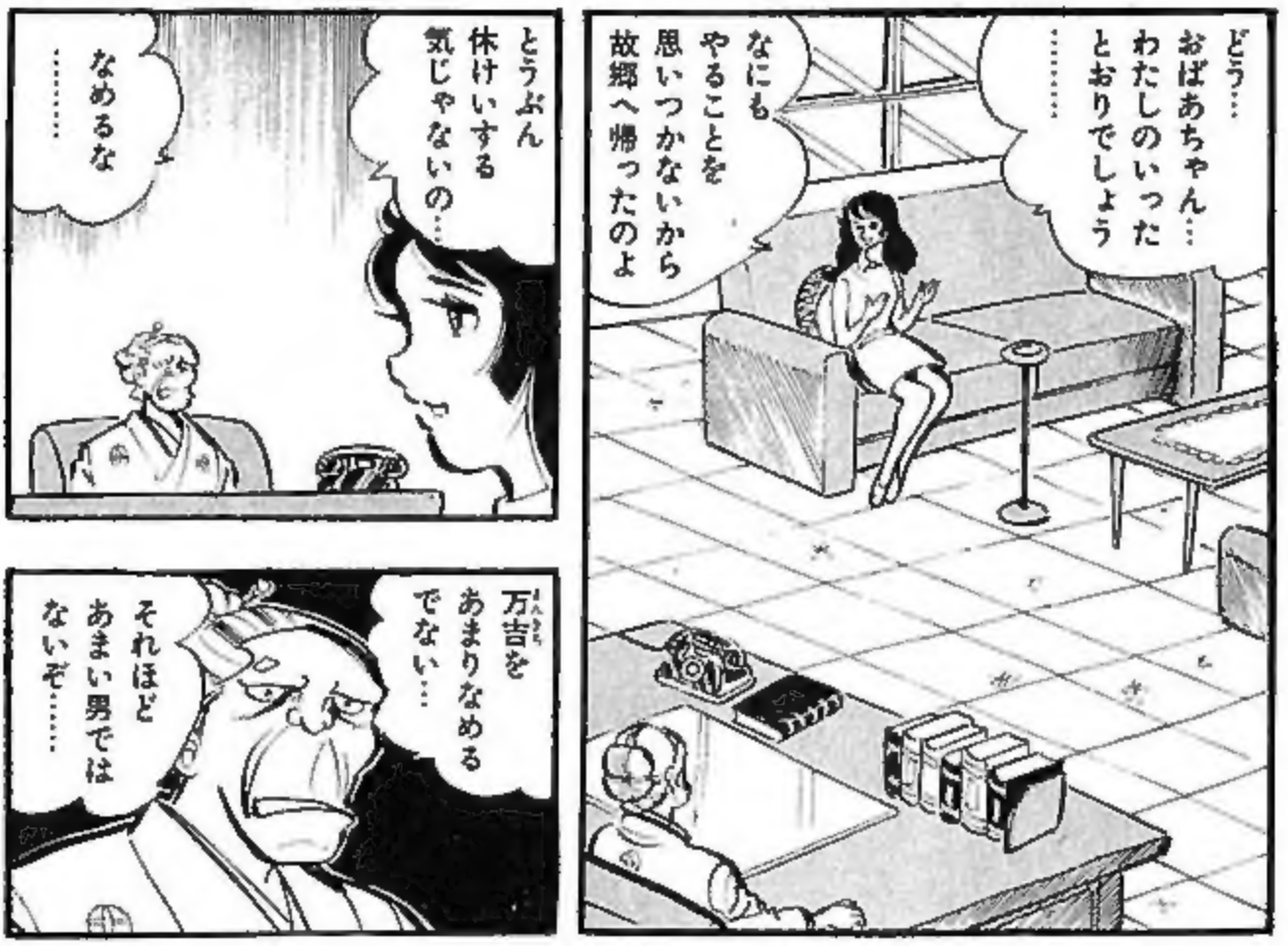
男一匹ガキ大将

土佐の源蔵の巻

なるほどな……

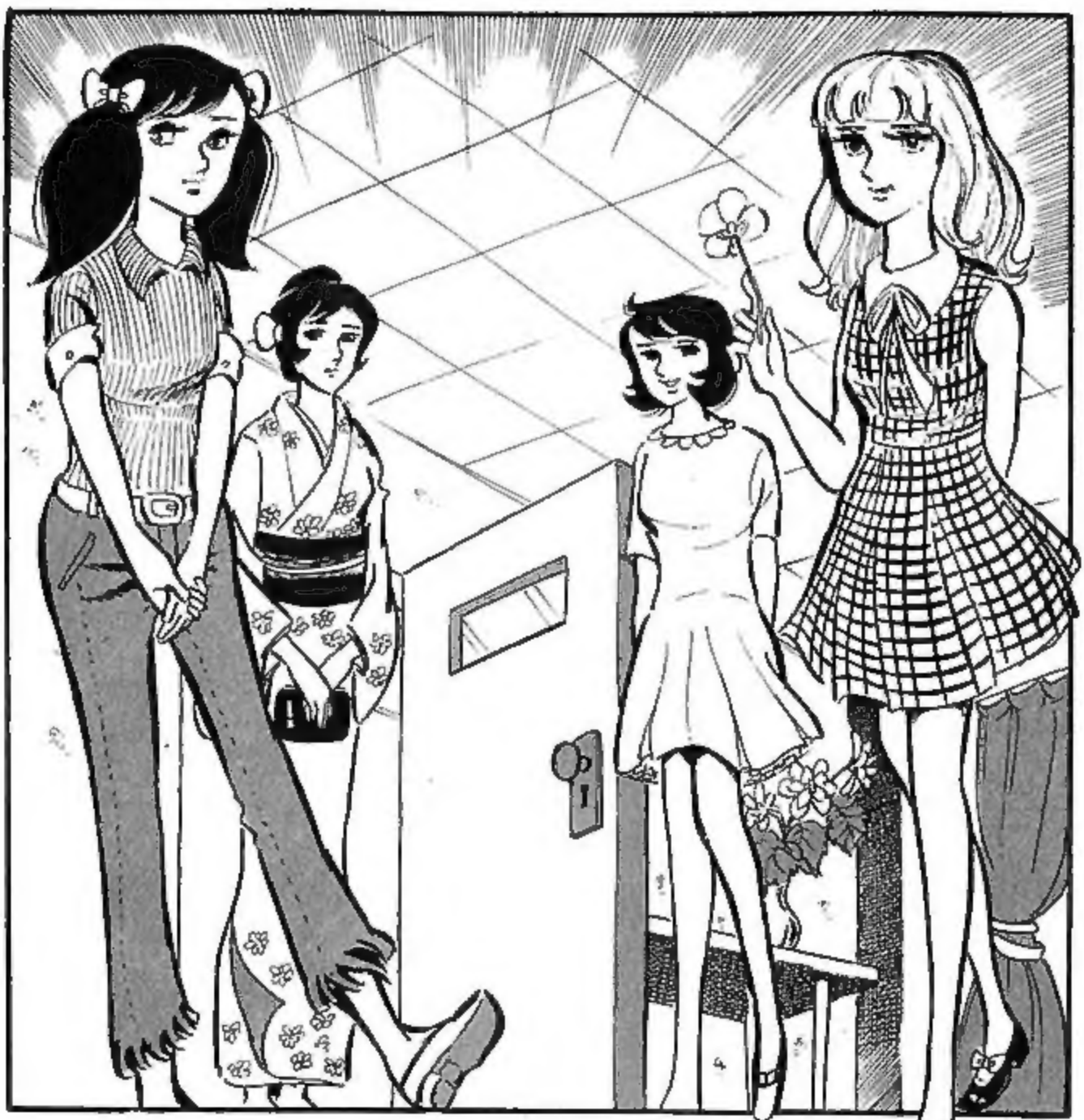
すると万吉め…
そのまま
まっすぐ西海へ
帰ったと
いうのか
はあ
……

ふふ……


どう…
おばあちゃん…
わたしのいったとおりでしょう
……
なにも
やることを
思いつかないから
故郷へ帰ったのよ
とうぶん
休けいする
気じゃないの…
なめるな
……
万吉(まんきち)を
あまりなめる
でない…
それほど
あまい男では
ないぞ……

ところで
おぬしのほうは
どうなんじゃ…
その後…
万吉(まんきち)に　なにか
手を
打ったのかい…

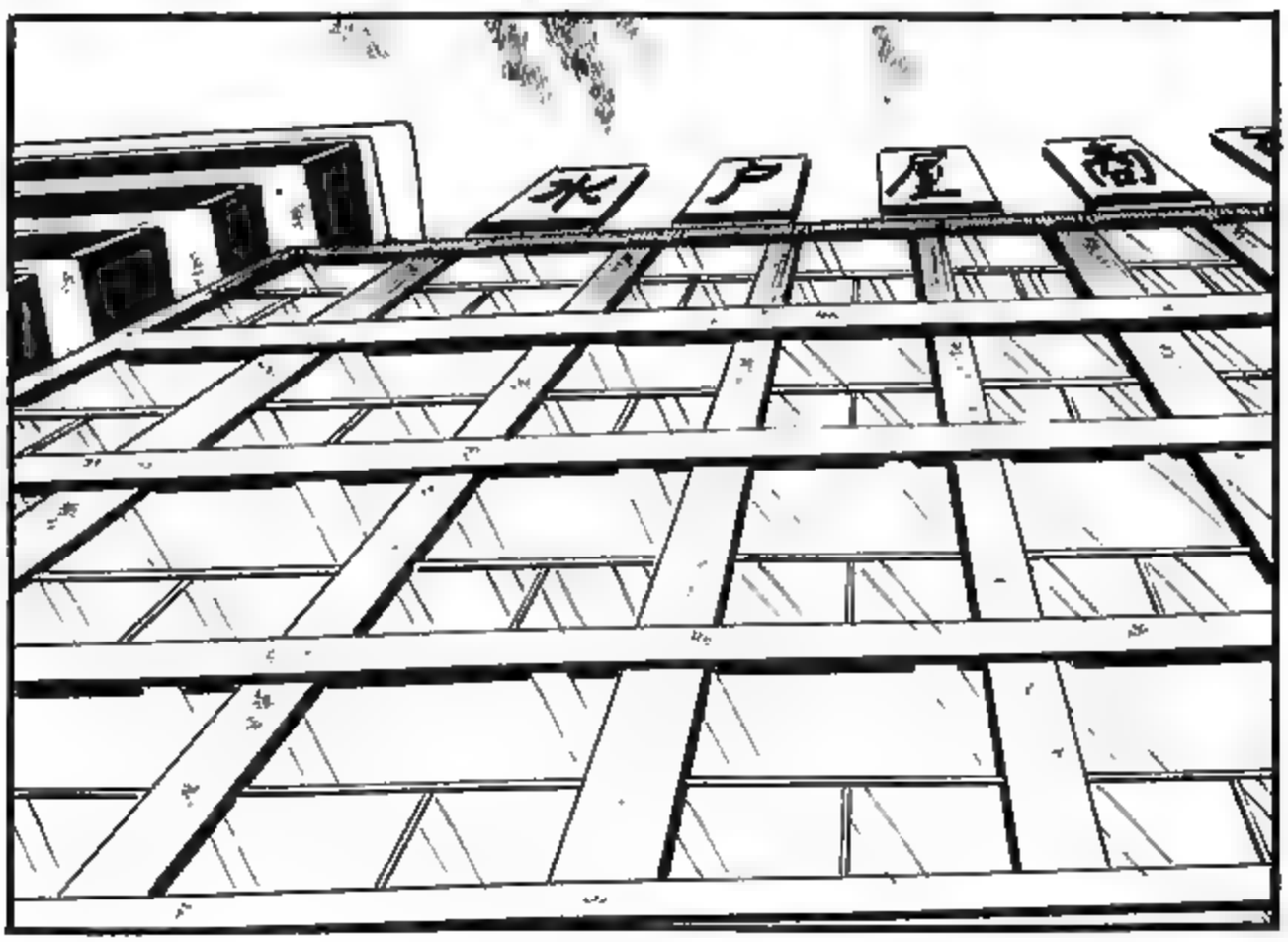
おばあ
ちゃんは
特別だけど
さ…
女が……
美しさと若さを
武器にしたら…
どれほどこわいか
みせてやるわ……
ふふ…
ガッ
ナイフ

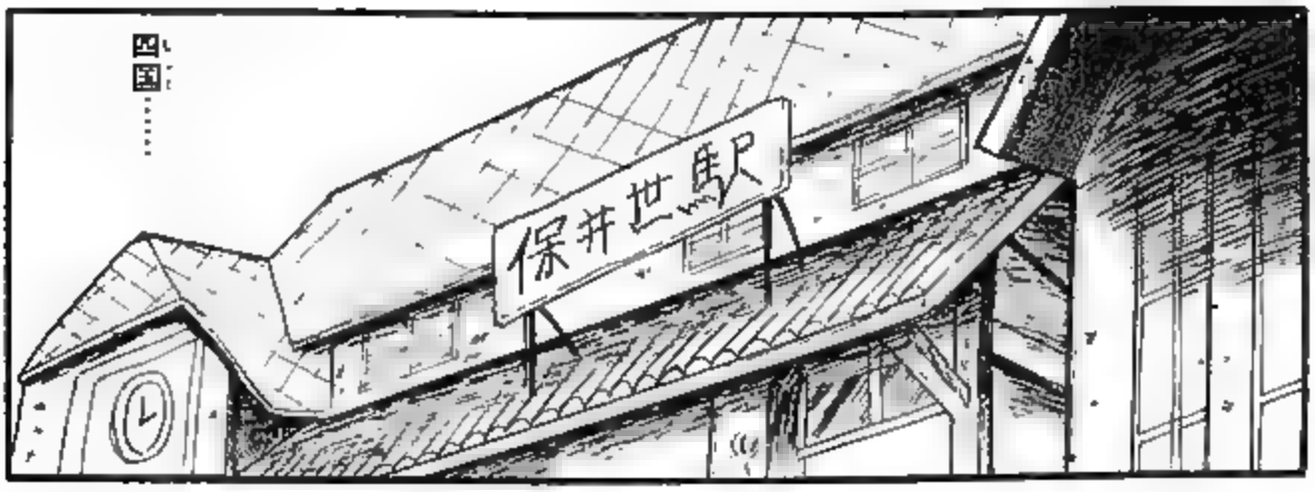


ふ〜〜む
なんじゃ
この連中は
……

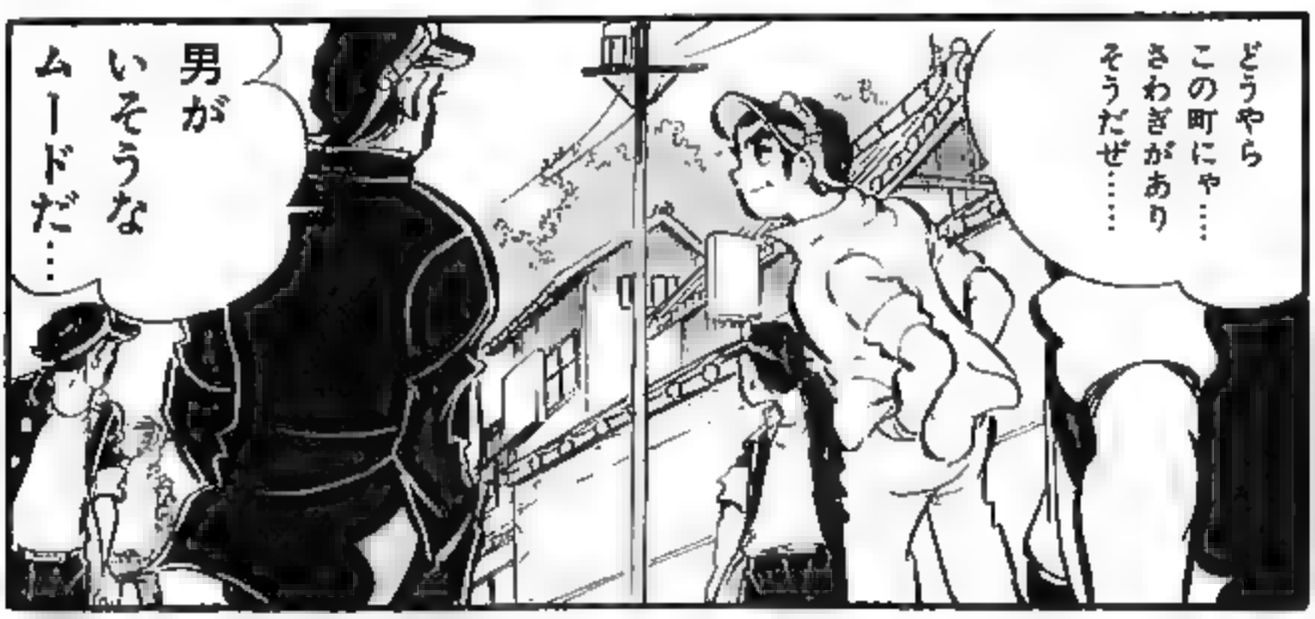
みんな　わたしの友だちよ…
いわば　我軍の兵隊さんね…
ふふ…
年よりはとうぶんひっこんでいてもらってけっこうよ…

なるほどのう……
こいつはゆっくり見物させてもらおうかい
あっはははは
ははははは

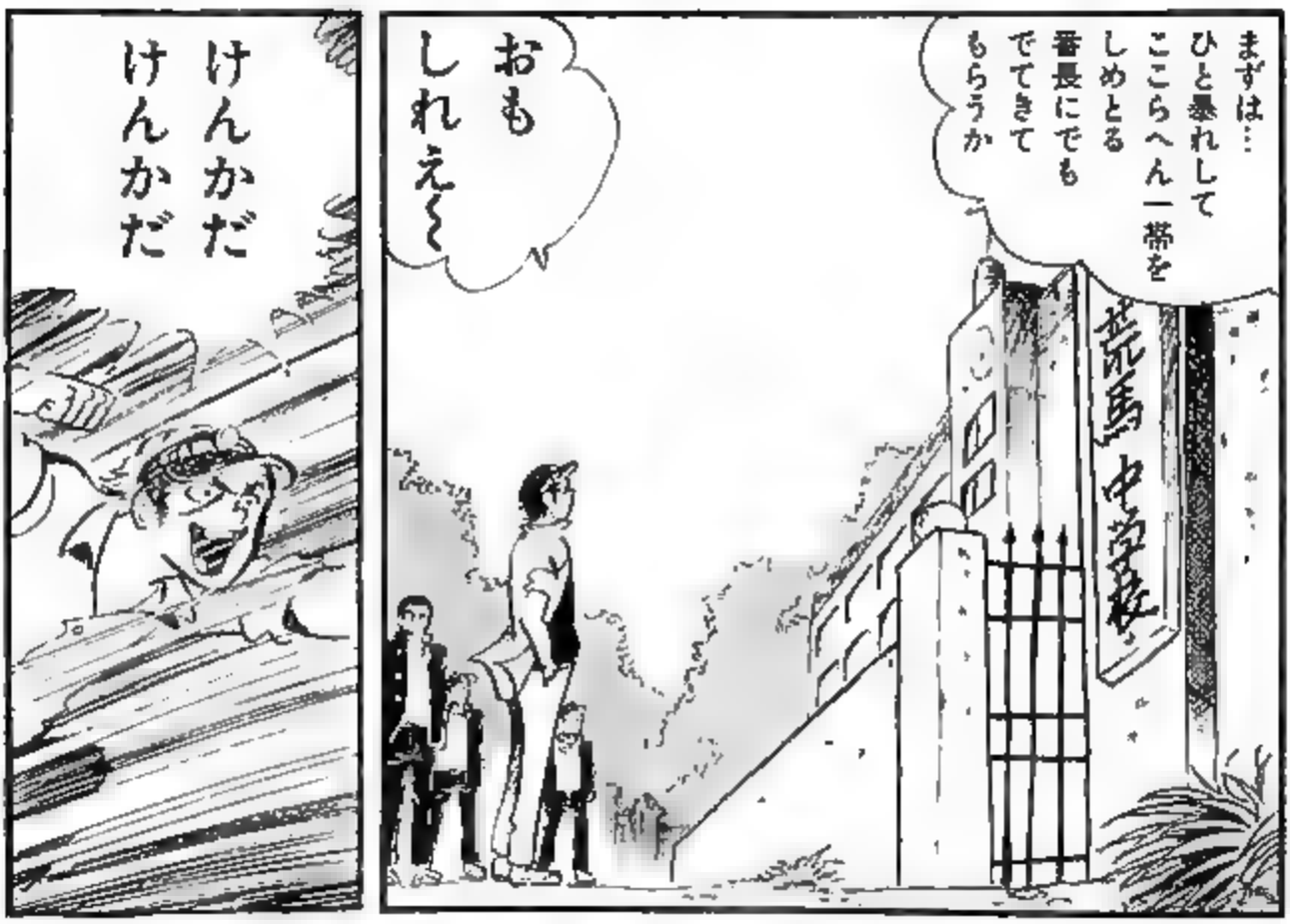

水戸屋
商

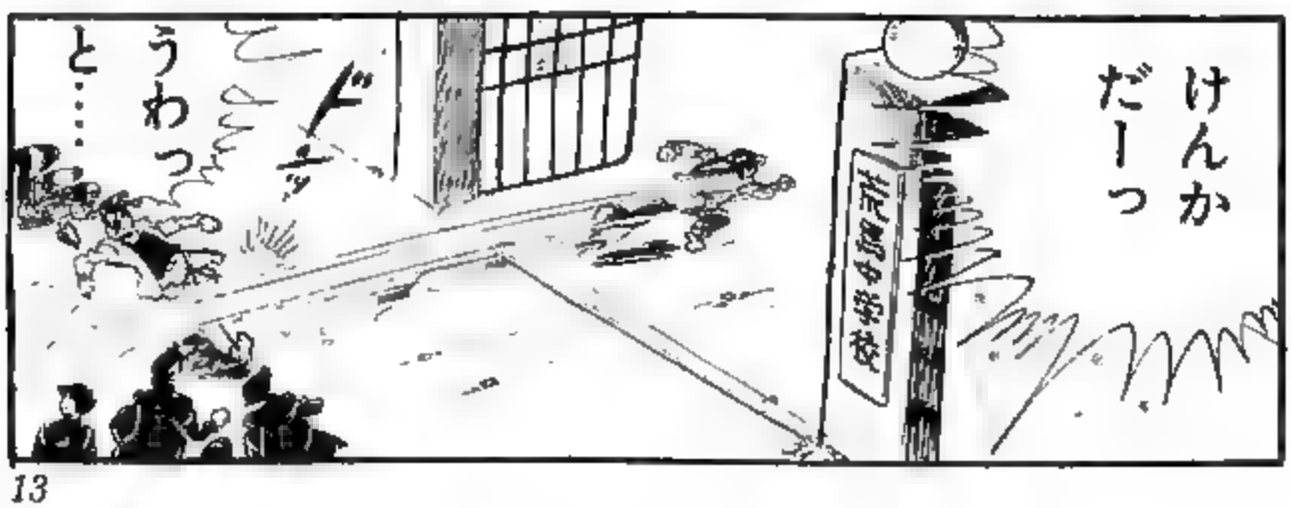

四国……
保井世駅

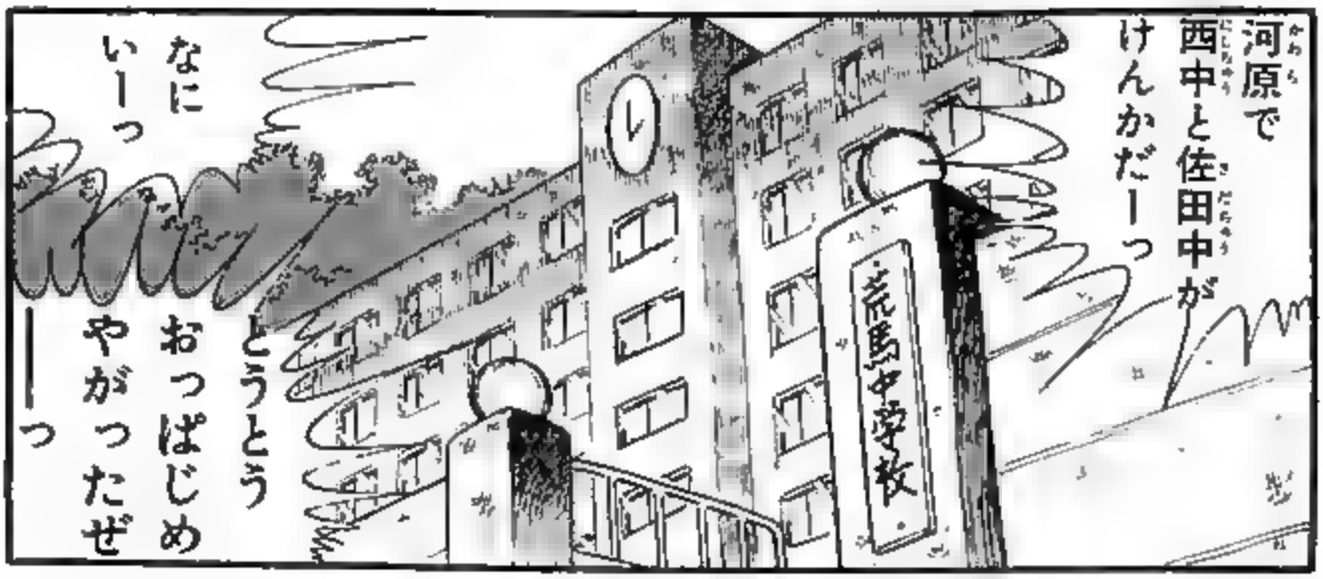
井世馬尺

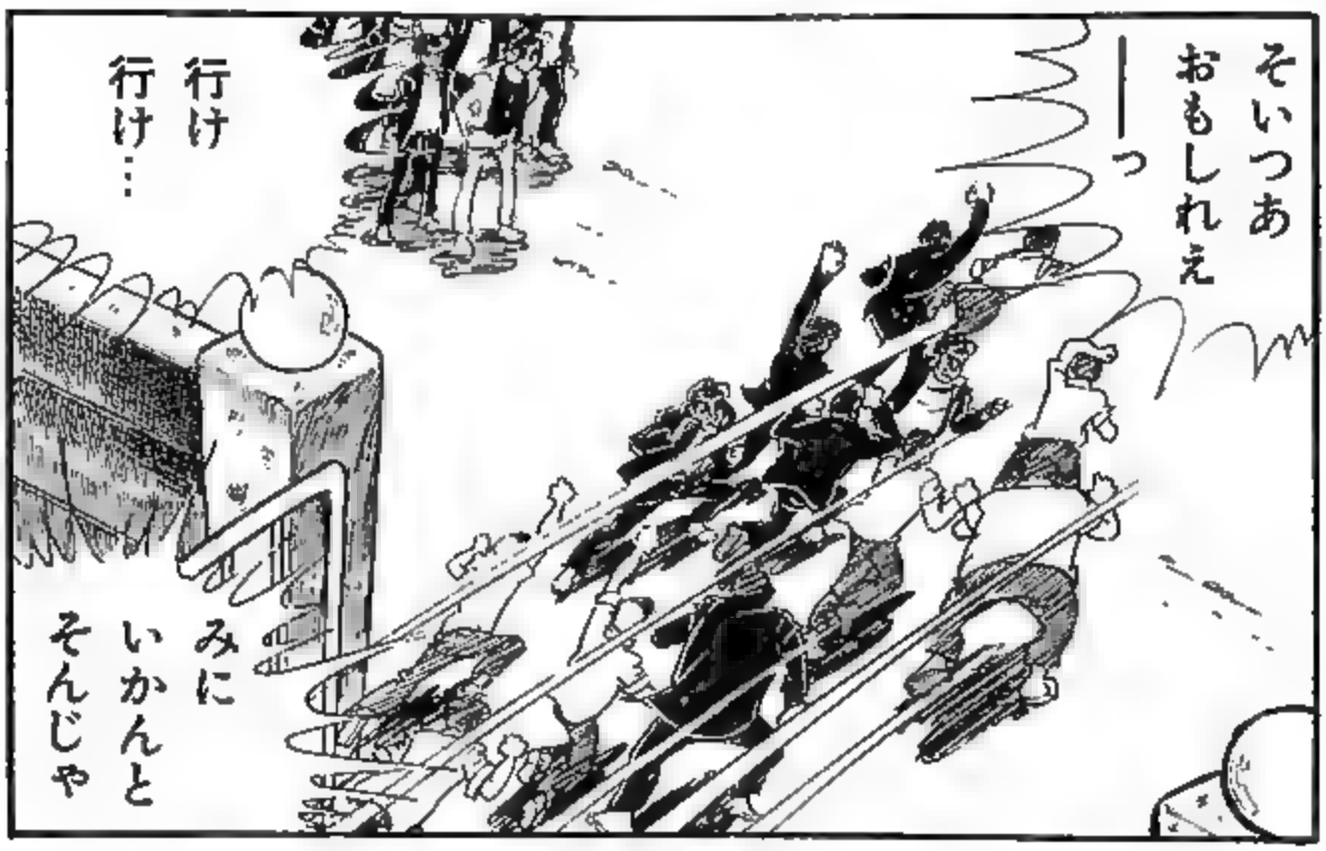

どうやら
この町にゃ……
さわぎがあり
そうだぜ……
男が
いそうな
ムードだ……

へ～～っ
そらまた
なんで…
わいらには
ちっとも…
ばか
やろう…
長年の
カンだ……
そういう
においが
するのよ…


まずは…
ひと暴れして
ここらへん一帯を
しめとる
番長にでも
でてきて
もらうか
荒馬中学校
おも
しれえ～
けんか
だ
けんか
だ


けんか
だーっ
荒馬中学校
ドッ
うわっ
と……


河原で
西中と佐田中が
けんかだーっ
荒馬中学校
なに
いーっ
とうとう
おっぱじめ
やがったぜ
――っ


そいつあ
おもしれえ
――っ
行け
行け…
みに
いかんと
そんじゃ

へっへへ
……

おれ達も
行くぜっ
おお
――っ

待ちよったか
西中の
虫けらーっ
望みどおり
ぶちのめしに
きてやったどーっ
ぬかせ――っ
佐田中の
しらみ野郎
きょうこそ
おららの前に
膝まずかし
ちょうけん!!
おひょひょ…
やってる
やってる……
まったく
どんな所へ
きても やってる
もんだぜ へっへ

クーッ
ごたくは
あとに
せえーっ
いくぞーっ
西中!!

おおーっ
のぞむ所
じゃいっ!!

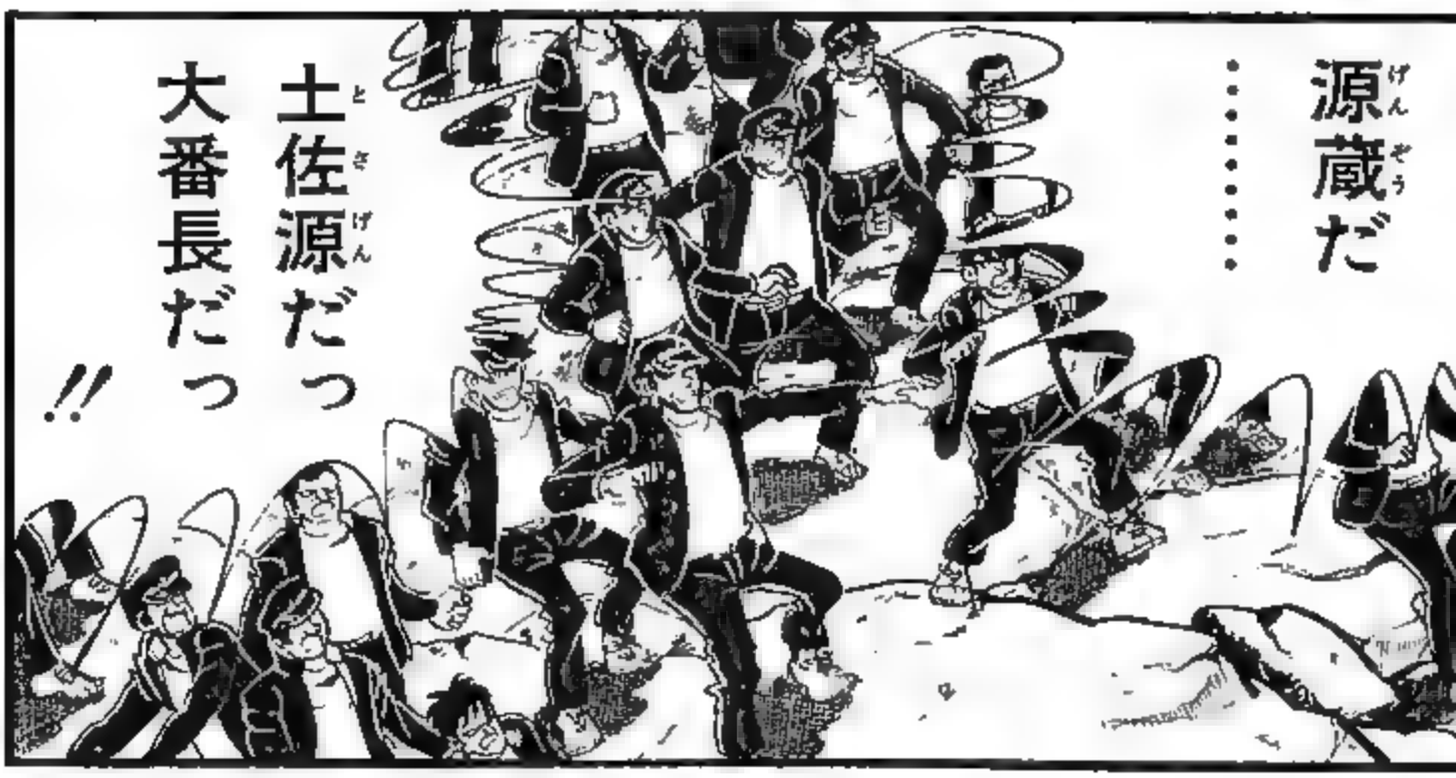
行くぜっ
このけんかを
万吉一家で
あずかる。
へいっ…

ぼんっ!!

うっ
ううっ

ン

あっ
源蔵
土佐源
だあっ!!


源蔵だ
……
土佐源だっ
大番長だっ
!!

まんじゅう屋
藤助の巻

けっ
ザッザッ
ザッザッ
なんでえ…
やる気か
てめえ……
ドッ
うっ…

やっ…

やろう
～～っ

よしな
さい…
ン……

へっへへ……
なんのために この土佐へ きたか しらねえが……
よそ者だろう……あんた……
だっ……だれだてめえ!!
だったらだまってみてなよ……
あの土佐源がどういう男か……
なにいっ……

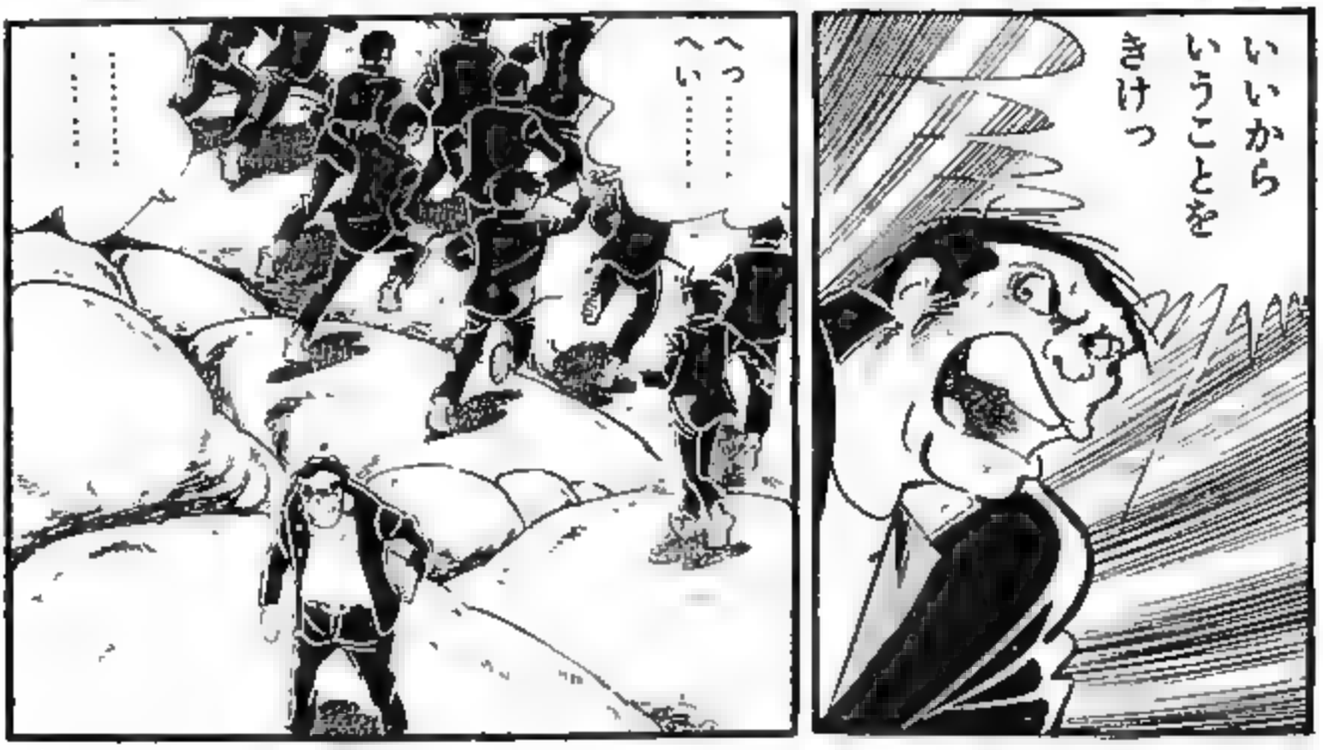
ううっ……
あわわ……

佐田中の熊沢……
へっへい……

西中の
吉良――っ
へっ……
へい……
ききまら
ふたりだけ
のこって　あとは
解散させろいっ
このけんか
土佐源が
あずかるっ!!

たっ……大将……
あ……あかん……

いうことをきけ……
だけど大将…


いいからいうことをきけっ
へっ……へい……
……

アホンダラがあ――っ
わあ――っ

わしはなん度もいったはずだなっ!!
ぜったいに仲間うちのけんかはやめろと
あっ

すっ……
すんません
……
いうちみ!!
熊沢……
吉良!!
こうなった
理由を……

へっ……
へい
そっ……
それが
ただ……
その
こいつらが
でけえ
つらして
ばかやろうっ
てめえらのほうが
でけえつらして
歩いているんじゃねえか

なにいっ
……
なんでえ
!!
おのれらは
いい年
しちょっ
てえっ

そのていどの
ことでしか
けんかが
できんのかいっ
げっ!!
男のけんか
ちゅうのんは
そんな安っぽい
もんと
ちゃうのんじゃ

へっ……
へい……
おのれ
らには
わからん
のかっ…

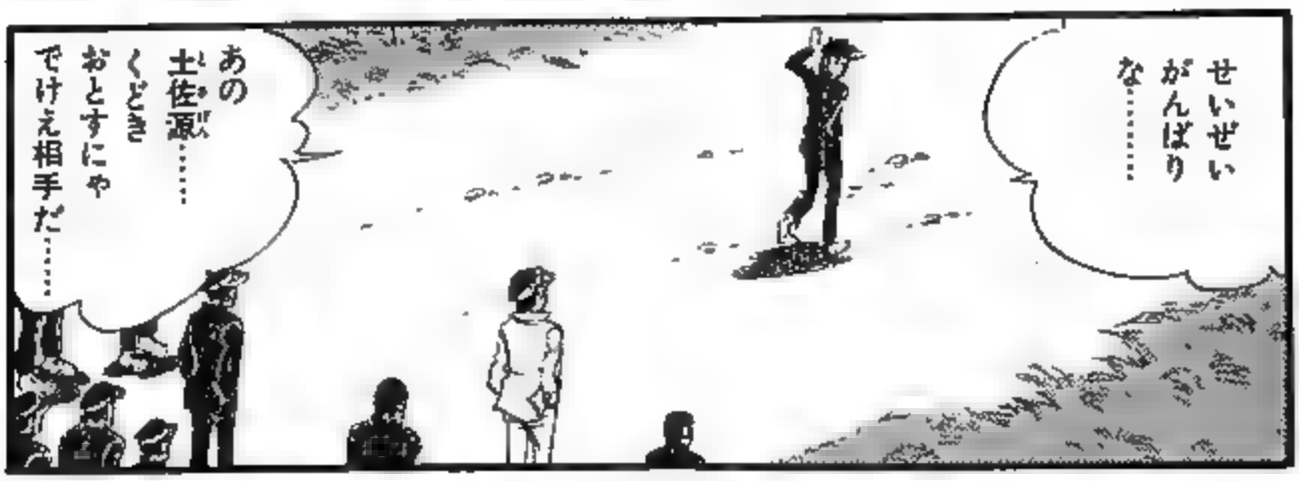
ただの
安っぽい
けんかなぞっ
やればやるほど
おのれを
安っぽく
するもんじゃ

きさまらは
なんのために
みんなの上に
たっとるのか
……
そこを
考えれば
こんな
けんかなぞ
できんはずだぞっ
それとも……
おんどれらには
それだけの力量が
なかった
ちゅうのんけっ
……
いっ……
いえっ……

じゅうぶん
わかりました
ほんとに……
おれたちが
だったんです……
ばか
おゆるし
ください
ようし……
だったら……
あとくされなく
仲なおりせえっ
……
悪かったなあ
吉良……
いや
おれたちこそ
すまなかった
……

みごとだぜ……あの野郎……
荒井源蔵通称土佐源……
ふふ……ここらへん一帯をひきいている男よ……
あの男がいるかぎり……ここじゃあもめごとはすくねえ
おたくの親分とおなじだぜ
銀次さんよ……
うっ……

しってたのか……
へっへへ……なんのためにきたのかもな…


せいぜいがんばりな……
あの土佐源……くどきおとすにゃでけえ相手だ……

まっ期待してるぜ……へっへへへ
てめえの名まえは……

土佐の一匹狼まんじゅう屋藤助……

まんじゅう屋藤助……おぼえとくぜ……

おや
び〜〜〜ん
!!

それじゃ……
行ってくるわ
おしょうはん
うむ……

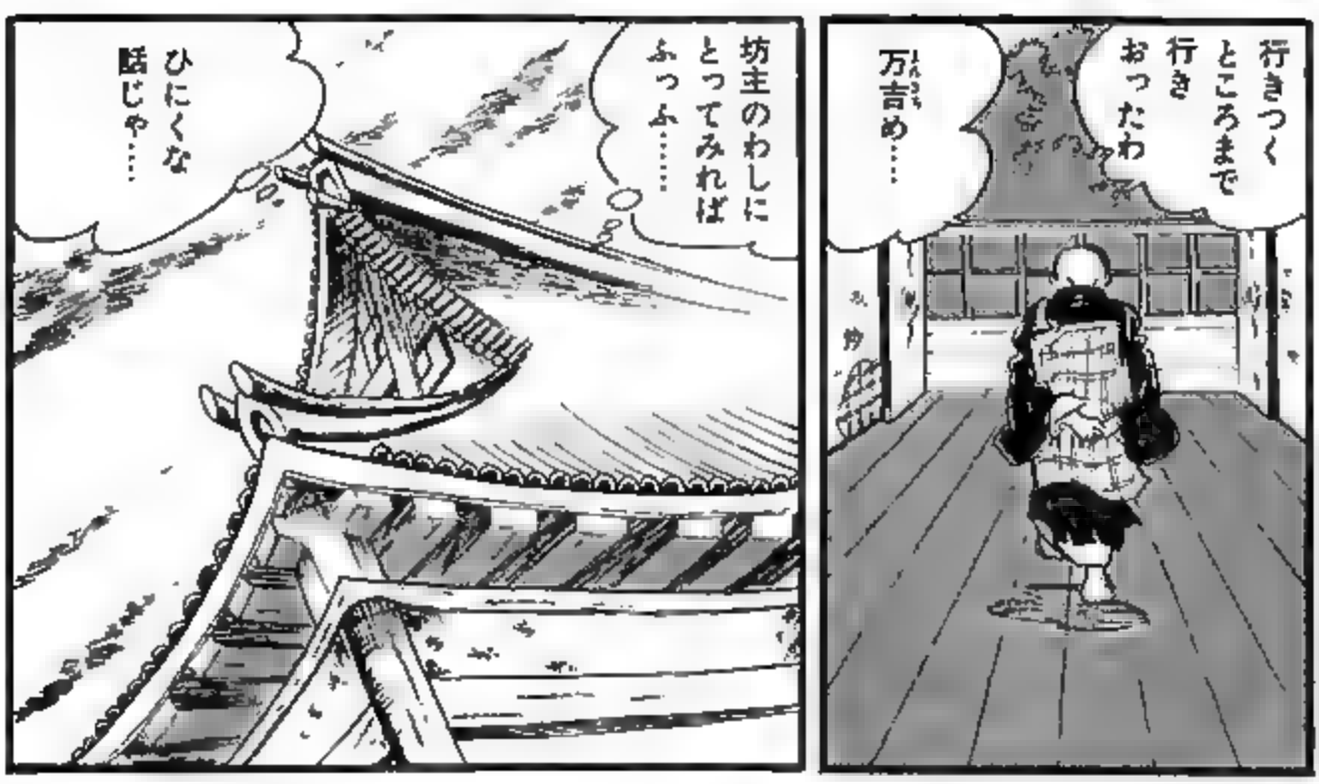
行こう……
行こう
はよう行こう
なあ——っ
はっはは
せかすな……

万吉よ……

へっ
……
さっきも
いったように
おぬしには
もう
話すことも
なくなった……

だが
さいごに
ひとつだけ
きかして
くれっ…
これから…
おぬしは
なにを
やる
つもりなのか
……
人に
うらまれるような
悪党に
なるかもしれん
……
それだけの
かくごは
あるのか
……
わからんが…
やるとこまで
やったる…
それだけ
じゃ……
なにを
わけの
わからんこと
いってまんね
……
はようせんと
潮がひいて
さかな
つれまへん
でえっ
わかった
わかった……
それじゃ
おしょうはん
……

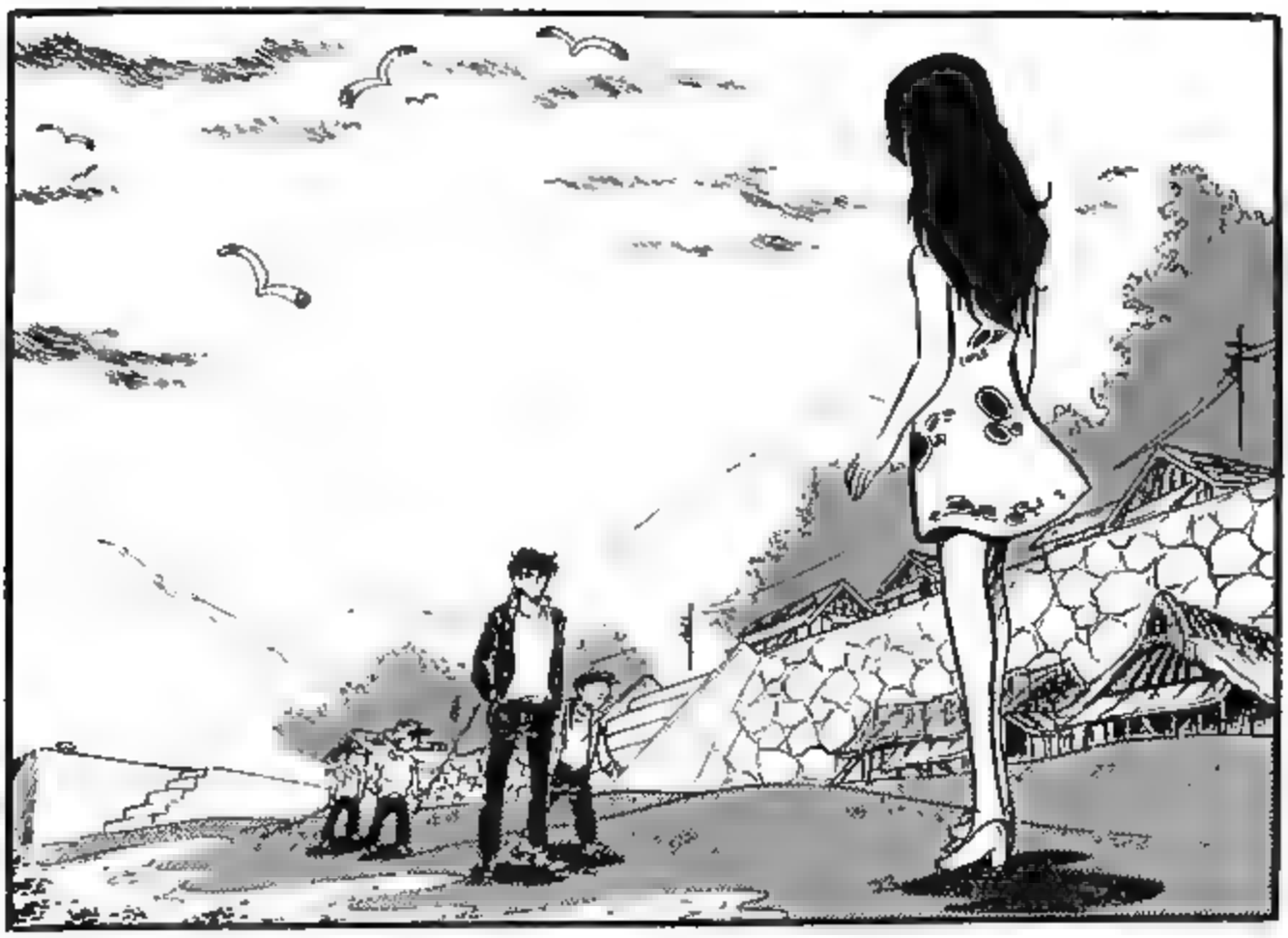
悪党になるか……
やつめいままでは売られたけんかを買っているつまり 守りの戦いだった……
それをいよいよ……じぶんのほうからけんかを売っていくつもりか……
おのれの目的のためじゃまする奴はけちらし……
必要とするものは……自分から戦いをいどんで取る……


行きつくところまで行きおったわ
万吉(まんきち)め……
坊主のわしにとってみればふっふ……
ひにくな話じゃ……

親分……
わい　きのう
こんなん
つったんやでえ
あっ
うそつけ
このくらい
やんかっ……

アホッ
そんなんと
ちゃうわっ……
こん
ぐらいじゃ
……
そんなこと
あれへん
こんくらい
じゃった…

ン……



こんにちは……
あっ……ああ

すげえかわいい

役者だぜ……
眼帯の銀次に土佐の源蔵かふふふ……

おんどれかっ……
けんか状
どういうりょうけんじゃい見ず しらずのわしに…こいつは

なにぃ~~っ万吉……
赤姫山の戸川万吉か……

あんたを……男とみこんでのことだ……
おれは西海万吉一家の久保銀次……

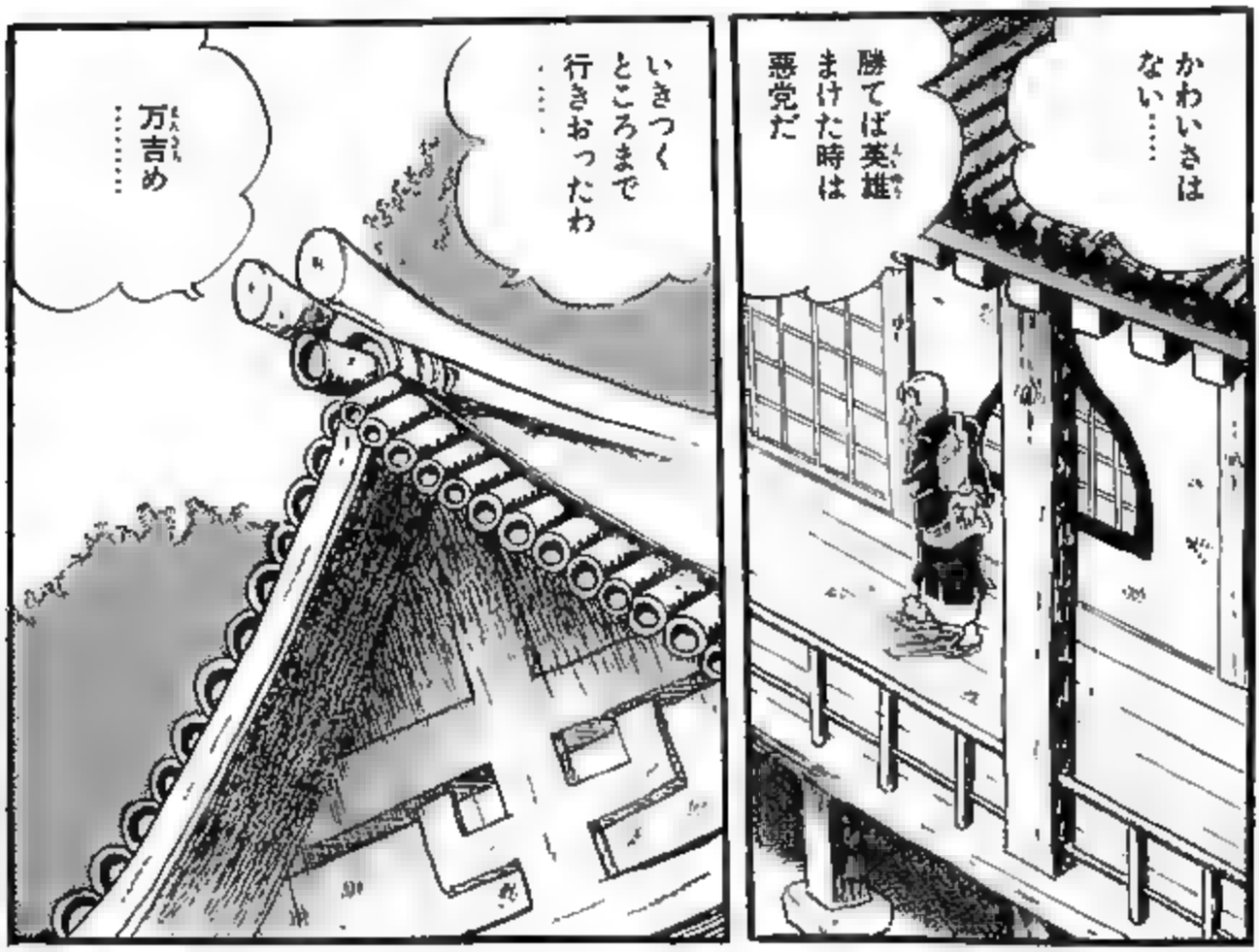
いかにも……
その万吉がなんでこのわしにけんかをふっかけるんじゃい
ひとつだけことわっておくがこのけんかあんたのいう安っぽいけんかじゃねえ
男と男のむすびつきとおもってもらいてえ……
ふっふ……おもしろそうだな……
すまねえな……おれっちは…どうもこういうやり方しかおもいつかねえんだ
ゼーッ!!
うおおっ!!!

ニラみやがって!!

人がせっかく
いい気持ちで
ねむっていりゃ
……
なんでえ
どたどた
さわぎやがって

エンマの巻

守りの戦いの時…
それは
正義として
通用する・
しかし
万吉め…
攻撃の戦いを
はじめたよう
じゃ……
もはや
そこに
あまさはない…


かわいさは
ない……
勝てば英雄
まけた時は
悪党だ
いきつく
ところまで
行きおったわ
……
万吉め
……

人がせっかくいい気持ちで眠っていりゃ…
なにをやっちょんじゃワンラーッ

な…なにもんじゃ…
おんどれ……？
おれか…きかれて名のるもおこがましいが……
日本全国またにかけて真実を探しつづける男……

どんごろすのジェンマ!!

浮浪者か……
なにい——っ
気をつけて口をききやがれ……
わっ…
浮浪者たあなんだ……
浮浪者たあよ……
それをいうなら夢をもとめ真実をもとめすべてをすてて行動する……
勇気あるさすらい人…そういえ…
ふふ…

こぎたねえ
きすらい人
だ…
とにかく
すっこんで
ろいっ!!
いくぜ
土佐源(とさげん)!!
おおっ
!!
すっこんで
ろったって
すっこんでる
わけにや
いかねえんだ
ガ
ぶっとばされ
なきゃ
わからねえのか
ブー太郎
これが
おれの商売な
もんでな……
なにい
～～…

なにか
もめごとが
あったら
丸く
おさめる…
それで
メシに
ありつこうって
寸法だ
へっへへ……
ガ
ザ
うっ……
あ……
てめえは
……
いたのか
まんじゅう屋
……
へっへへへ…
ひさしぶりだな
源さん……

ちょっと
きなよ
あんた……
なんだ……
てめえ
おれの商売の
じゃまをする
気か……
あんた……
あの眼帯の大将
だれだか
しってるのか
しるかい……
万吉一家の
久保銀次だ
……
なにい
――っ
横にいる
でけえのが
……
ここいらへん
一帯に
君臨
している
土佐の源蔵…
ほ～～～っ

あんたが
商売に
なると
思うかい…
しら
なかったな
……
ご両人…
悪かったな
もうじゃまは
しねえ…
思うぞんぶん
やって
くれや…
ケッ
調子の狂う
野郎だ…
まったく
……

それじゃ
あらためて
やるかい
……
いい
だろう……

いくぜ
——っ
!!
まっ……
まてまて
……

おじけ
づいたか
……
みろよ……
あれを……

なっ……
なに
やってんだ
てめえ……
ははは
は
あ……
ああ……
へっ
へへへ
……
みてのとおり
赤チンに軟膏
オキシフル……
それに
ホウタイ　パン
ソウコウ……
松葉づえ
まで
あるぜ……
赤チン……
ひとぬり
三十円だ……
どうだ
安いぜ
まっ　安心して
けがして
くれや
はっ
はは
はは……

おふたりさん
こう　気を
そがれちゃあ
勝負に
なるめえ……
それにまあ
おたがいの　腕の
ほども……さっしが
つくはずだ……
フ・フフフ
キェ――ッ
リャあっ!!

おら～～～っ……
行ってもいいぜ
銀次さんよ…
万吉さんに
あいにな…

へっへへ
これが
おれの腕だ
……

どういうこと
なんじゃい
まんじゅう屋
……
……
へっへへ…
西海の戸川万吉
日本全国から
男をあつめろって
命令したらしいぜ…

九州でも網村とかいうのが暴れまわってるそうだ…
うわあはははは
ふっふ……
するとなにかい銀次さん…
あんたこのわしを万吉の子分にするためにけんかをふっかけたというわけかい
そういうことになる…
なめられたもんじゃい……
ふふ…

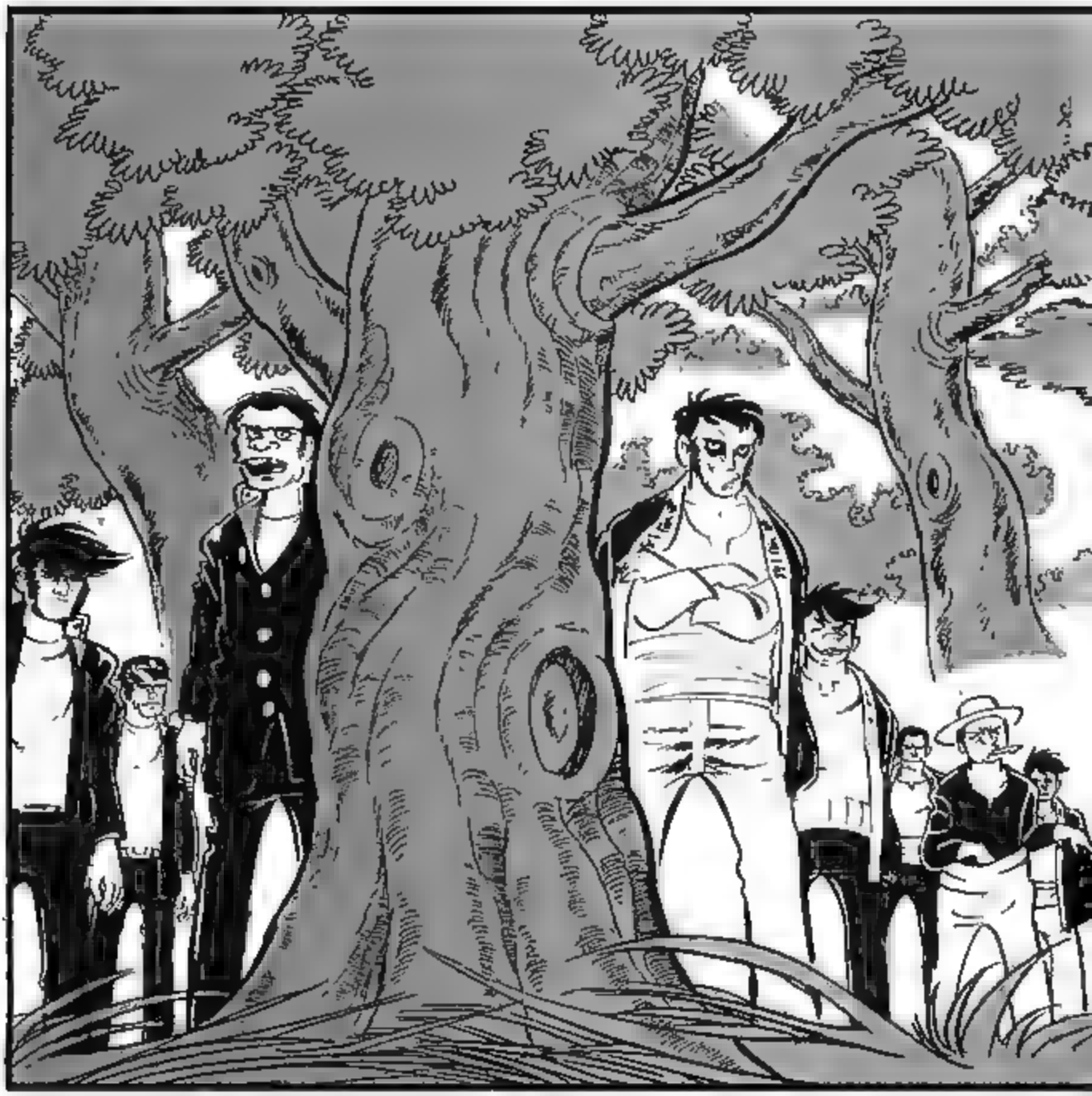
しかし
戸川万吉か……
ケッへへへ…
一度あって
みても いいかも
しれねえな…
どの
ていどの
男かよ……

あんたは
どうなんだい
源さん……
わしか
……
ふっふふ

でてこいっ
うじ虫め
ら――っ
どうせ
用事があるのは
わしの
はずだっ……
熊沢
吉良
――っ!!

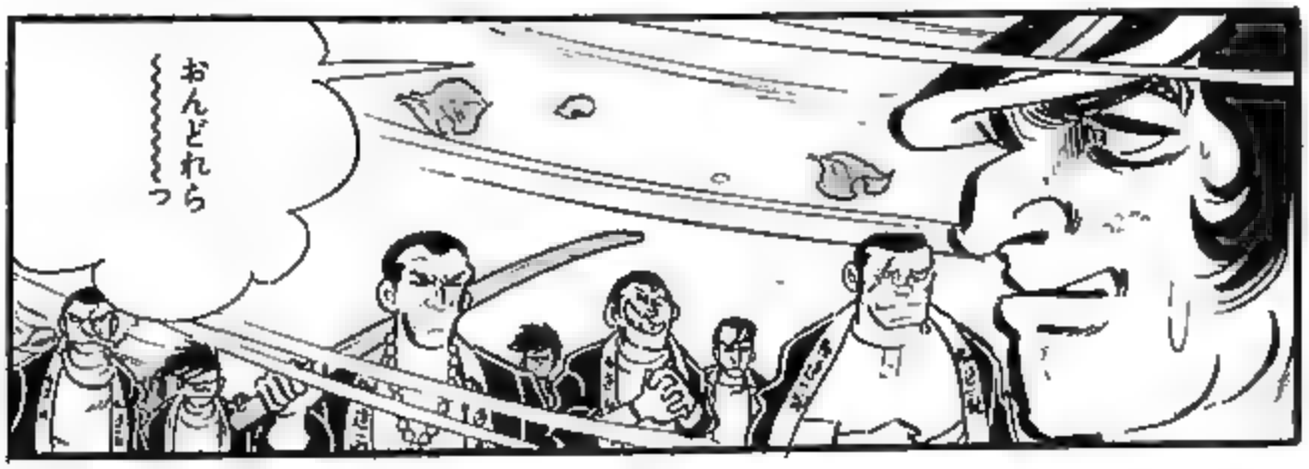
あっ……

わしのいったことがわからなかったようだなチンピラ……



ああ……
あんたに
これ以上
でけえつらを
させとくのは
がまんならねえ
……
いちいち……
うるせえこと
ぬかしやがって
え～～～っ

ふたりで
相談して
今後は　おれ達で
ここいらへんは
しきることに
したんじゃい
……
あんたは……
でて行って
もらうぜっ……


おんどれら
〜〜〜〜〜っ

わしを
怒らせ
おったなあ
〜〜〜〜〜っ
これで……
かんぜんに……

ケッヘヘ……
こいつは
おもしろく
なって
きやがって
おれたちも
手をかすぜ
源さん……
けっこう
……

こいつは
わいの
不始末や
……
おのれの
ことは
おれひとりで
ケリを
つける……

たしかに
のぼせ
あがった
野郎だな…
ねえ……
いったとおりで
しょう
お礼は　あとで
ガッポリ
はずみますぜ
へっへへへ……

ぬかせ
――っ
カスどもが
あ――っ
うっ
……
うわ
――っ

うおおーっ
げえっ!!

きけいっ
ブタ
野郎めら
わしゃあ
なあ
――っ
それだけの
力量も
あれへん
カスめが……
それも しらんと
ちょろちょろ
動いているのを
みると
むしょうに 腹が
たつんじゃあ
……
やっ……
やろう
なめたこと
ぬかし
やがってえ
……
もはや
かんべん
ならねえ
――っ
極道一家
極道一家

やかましいーっ
!!げんっ
かんべんならんのはこっちじゃ
ぎゃっ
げえーっ
ほえ～～～っ
やる～～～っ

あわわわ……
あ"あ"あ"っ!!
ぐっ!!
げ"ぇ~ん!!

うわっ!!
ぎゃあああっ!!

わしも
西海へ
行ったろうや
ないけ……
ほ……
ほんとか
おいっ
眼帯の
大将……
おう
……

あわてるな
あいに
行くだけじゃ
……
わいが いちいち
でむいて行って
それほどの価値のない
男だったら……その時
えんりょなく
たたきのめすで
へっへへへ
そいつあ…
おれたちもおなじだ
子分になりにいくん
じゃねえ……品定めに
行ってやるぜ……
とり
ちがえる
なよ……

へっへへへ……
まあ あってみて
くれや
ひと目みた
だけで……
男としてほれるぜ
へっへへへ

ふふ……
そのことばに
いつわりのねえ
ことを
願ってるぜ…

万吉親分
どこへ
いったん
や！
おい
またや……
なにい
〜〜〜っ
なあ……
ラッパちゃん…
ええのんか
なあ……
親分……
あんな
ちょうしで
あっ
ああ……
親分かて……
年頃やし
なあ……

すてきよ……
あなたって……

キスしても…
いいわよ……
バカ……
いくじなし……

炎三兄弟の巻

ええ…
好きだ……
わたしのこと
何も
しらないのに
……

あなたとしりあって三日目よ……
かまわん!!

人を 好きになるのに時間なんぞ関係あれへん……

カンじゃ……
ひと目見た時からへんな感じがしたんや……

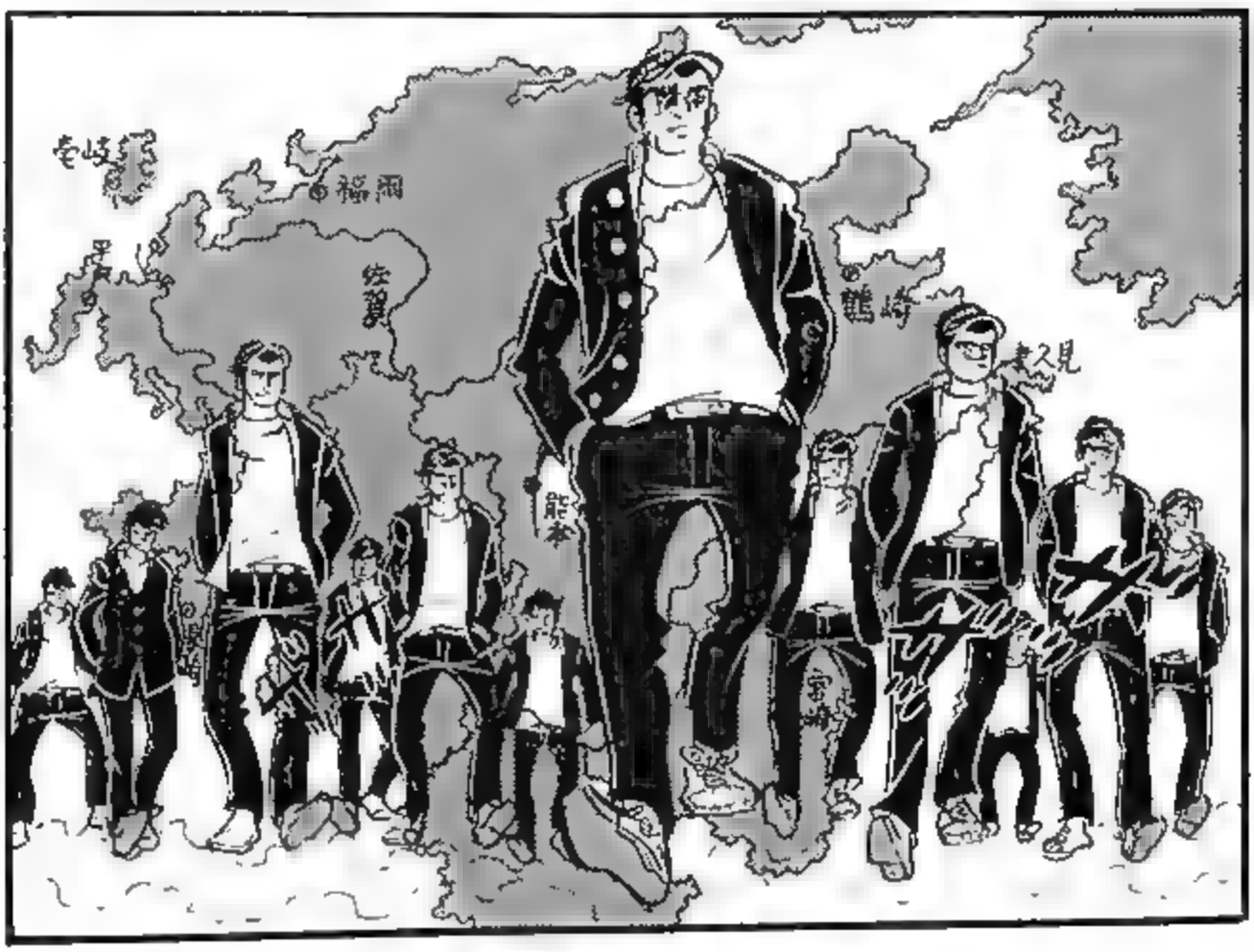
考えただけで胸が あつうなってきよんね……
あ……あかん……

うれしい……

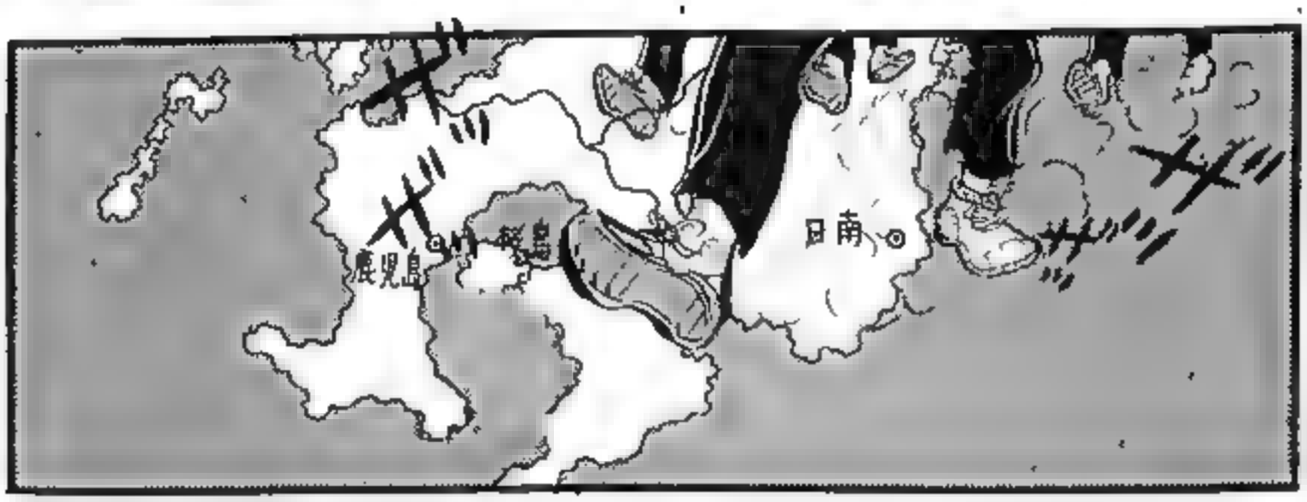
うおーっ!!
げえっ!!

ええかあーっ
今後は　ここら
一帯　万吉一家の
傘下に入って
もらう

文句
あれへん
な――っ


長崎
福岡
佐賀
鶴崎
大分
熊本

西海
万吉一家…
万吉
一家じゃ


鹿児島
宮崎
日南

何がでんね……
これで九州はことごとくたたきつぶしたことになりまっせそれなのになんでまた
うむ～～～っ……
おもろない……
おかしい……なんかしっくりこんわい……
へっ……何がでんね……
男がおらん……
九州男児といわれる骨のある男がおらんやないけっ
そういえば……
番長くせえ奴がひとりもいませんね……

それに……
いままで
たたきつぶした
連中も
ばかに
ぞろっと
している……
わしらに
なぐりとばされ
ても
平然と
きらしとる……

それが
おもろない
……

そういえば
そうでんな
……
なぐり
とばされても
どいつもこいつも
ニタニタ
さらしおって……

まあいい……
あした だれか
しめあげて
聞いたる
わい……
もう……
寝ろっ
……
へっ……
へい……

へっへっへ……
おんどれら
いったい
何じゃい
……

いったい
どういう
りょうけん
なんじゃ
おんどれら
!!

これだけ
ぶちのめされて
なぜ……
へらへら
笑ってられる
んじゃあ

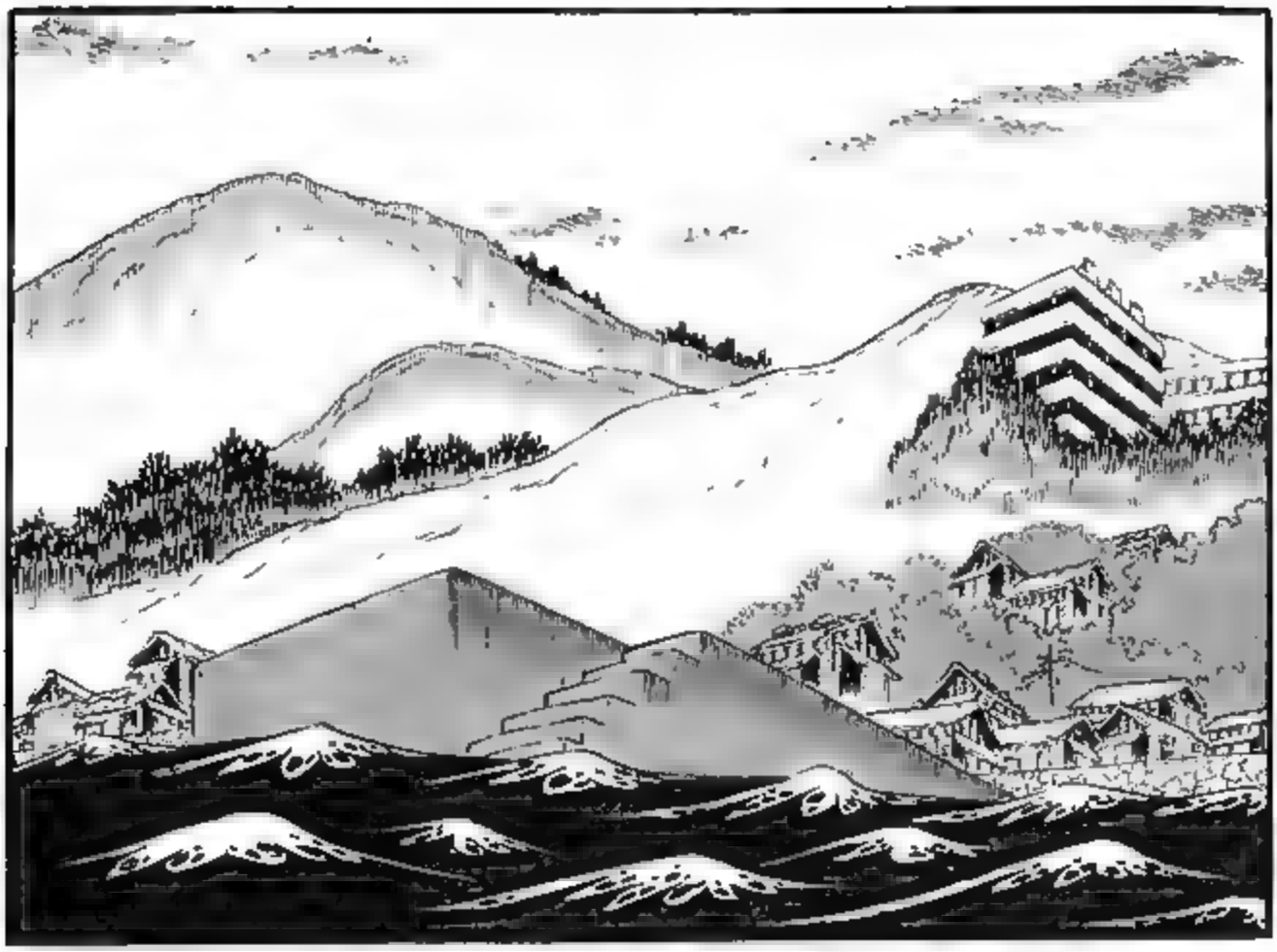
へっへへ……
わいらは
ほんのザコ
たい……
そのザコに
夢中になっとる
おはんら 見ちょると
自然に笑えてきよる

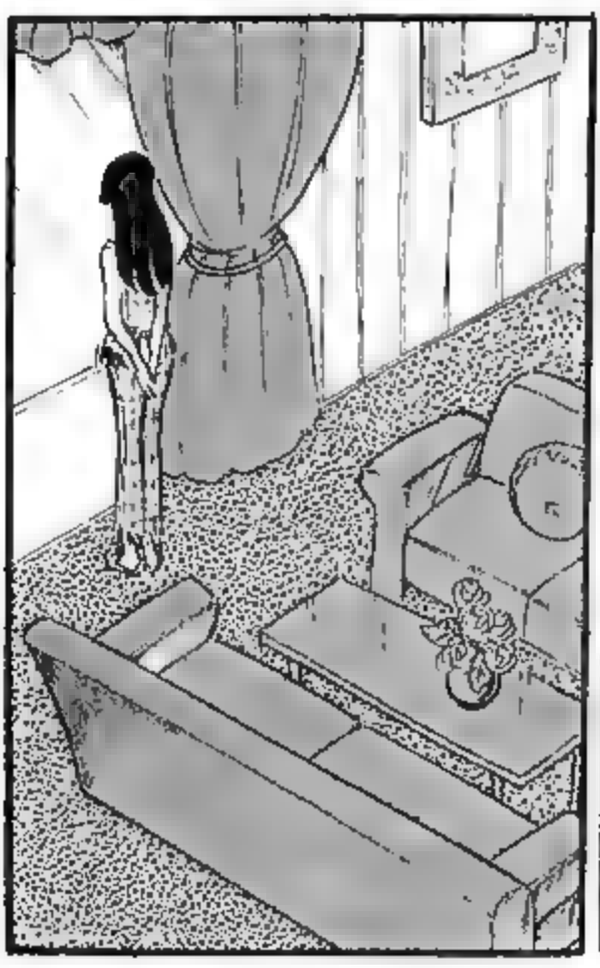
なにい
～～っ

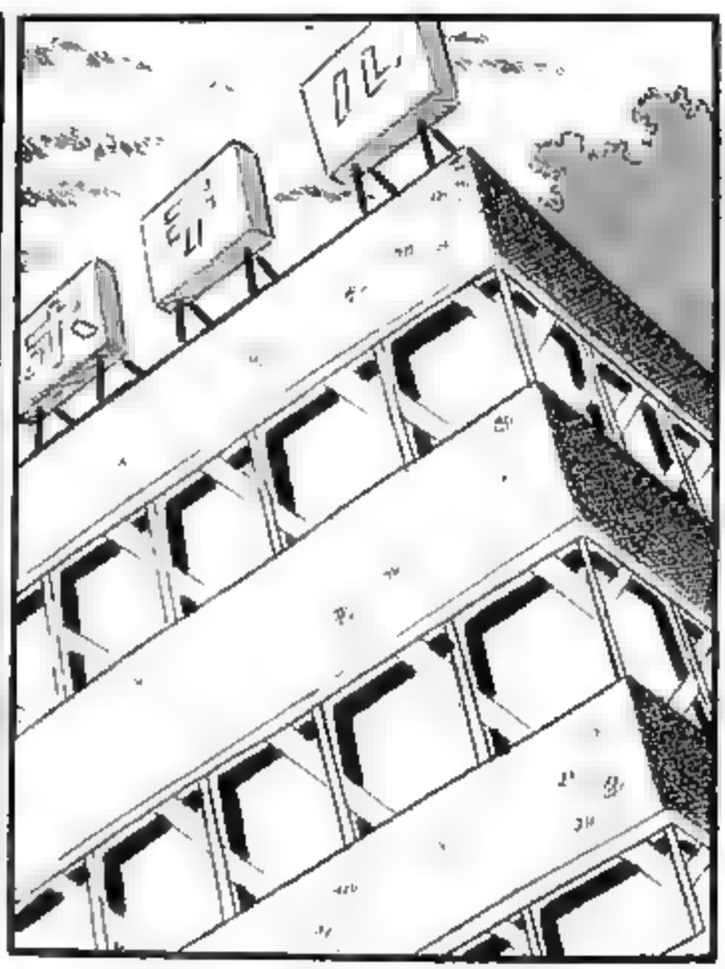
九州男児……
なめたら
いけんたい
……

いままで
おはんらが
暴れまわった
のは　すべて
むだ骨じゃ
ザコを……
いくら
ぶちのめした
ところで
何もならん…
大将は
いま　おらんのだ
……
くそったれ
〜〜〜〜
なめくさって
——っ
どこに
おるんじゃ
そいつらは
へっへへ
……
いわん
かいっ
いま
九州中の
番長たちは
……
どこ
じゃい
!!

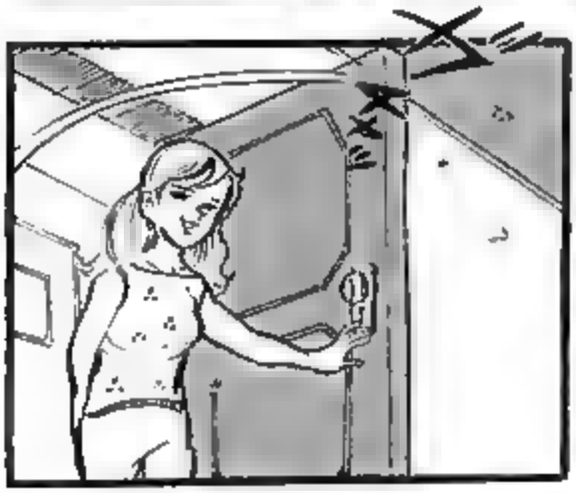
さつまの菊村どんとこたい
九州中の番長ぜんぶがお中元を持ってあいさつにいっとるんじゃ……
なっ……何者じゃその菊村ちゅうのんわ……
九州全部の悪たれどもの総元じめ……
菊村大助さまよおーっ



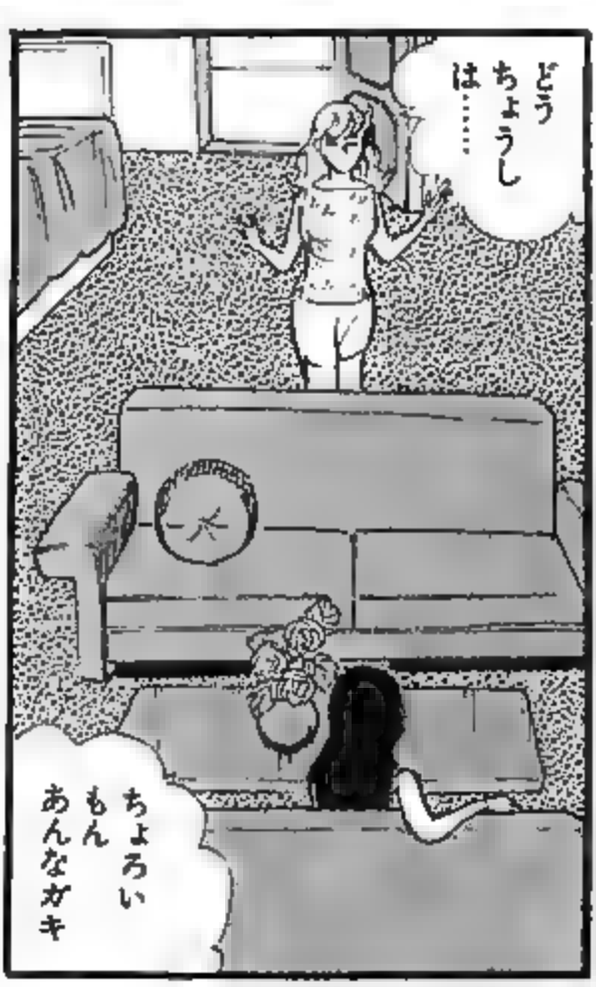




好きだ
ふふ……



もう少し
骨があるかと
思ったら……
意外と
かんたん
だったわ
……
万吉……

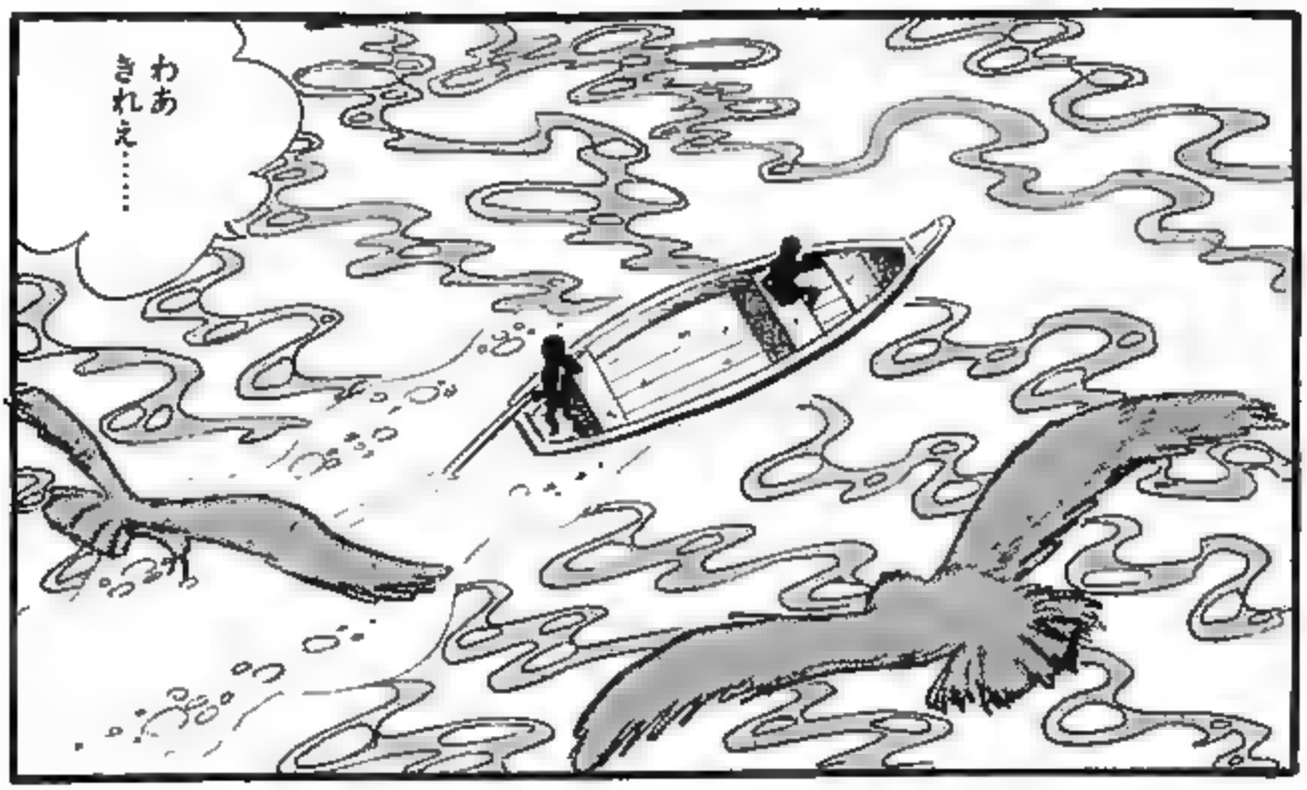

どう
ちょうし
は……
ちょろい
もん
あんなガキ

これから
また
あうの…
ええ
……

きょうは
船をだして
さかな突きに
いくんだって
……
ふふ…

そんなこと
いいながら
けっこう
たのしそう
ね……
ばっ……
ばかなこと
いわないでよ
……
親分
万吉親分
――っ

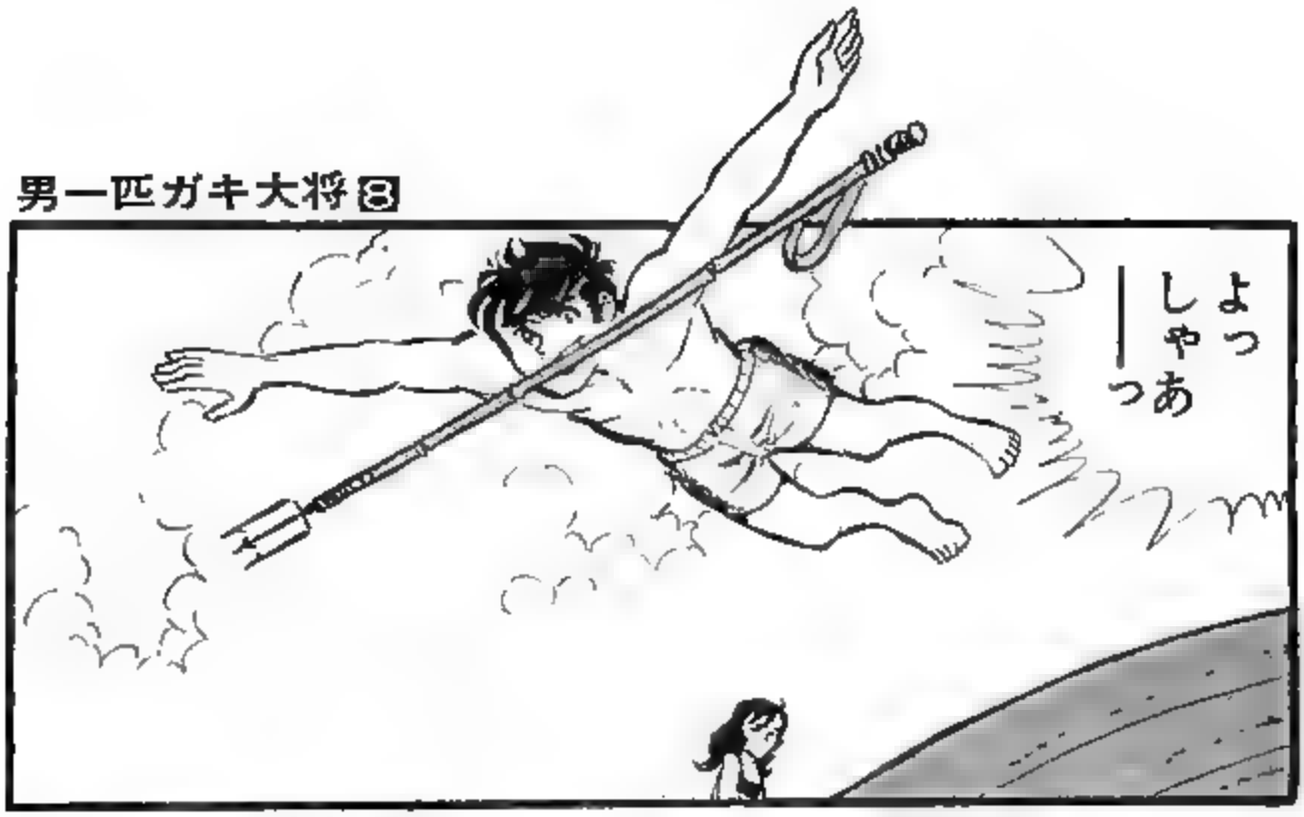
なんや
あわてて
親分やったら
おれへんで
……
どこへ…
どこへ
いかはったん
じゃい……
またや……
な……
親分
そんなこと
してる場合と
ちゃうで
……
どない
しましてん
ラッパちゃん……
きたんや
銀次から
……
四国の男連中を
つれて　西海へのりこんで
くると　手紙がきたんやあ……

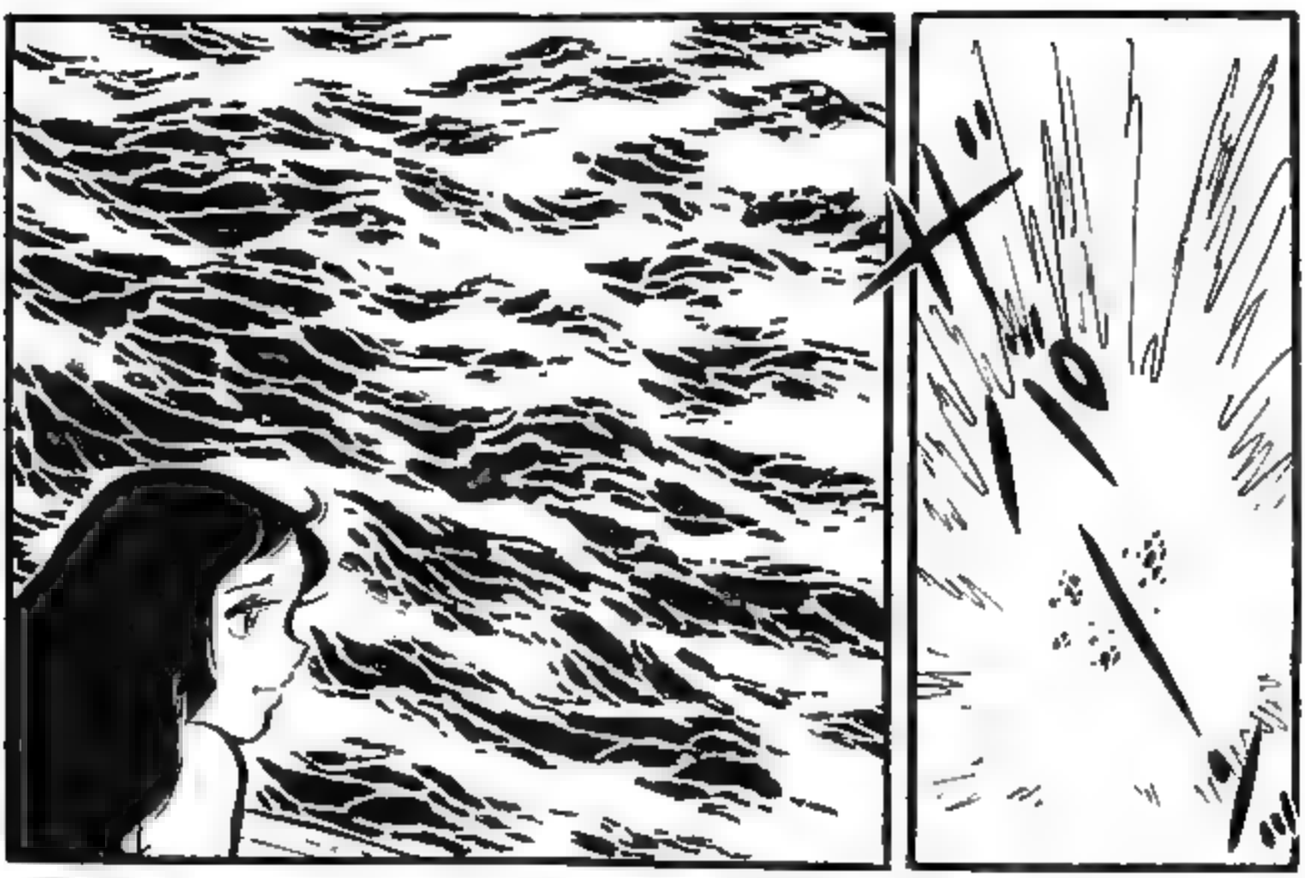

わあ
きれえ……

にあうな
それ……

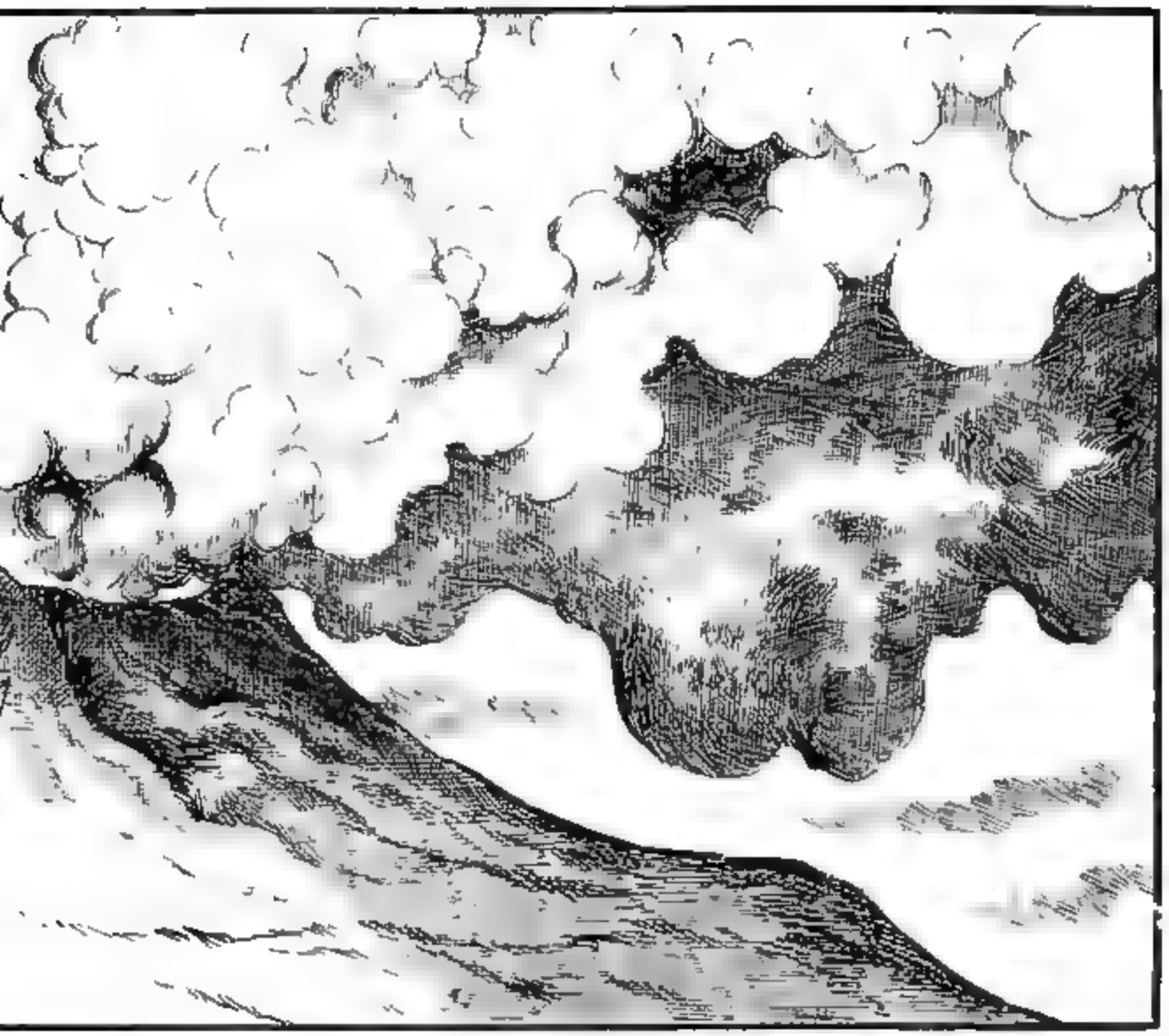
うっ……
うん……
きょうは
勇気だして
ビキニ着て
きちゃった……

それより
はやく
大きなさかなを
とってきて
……


よっしゃあ——っ



あなたはもう わたしのドレイよ……
万吉……



桜島……
九州

おはんか…
最近
九州にやって
きて……
暴れまわっ
とる
ちゅうのんは
……
西海
万吉一家
綱村鉄次…

ここに　これだけ
集まっとったら
どこにも
おらんわけだ
……
男どもが……
あんたかい
九州の悪たれどもの
総元じめ
ちゅうのんは……

はっは
は……
あんた　少し
図にのりすぎた
ようじゃのう……

九州男児を
なめすぎた
ようじゃ……
はっはは
はは……
相手して
もらえ
まっか……

わたしらも
むだな
あらそいは
あまり
やらんのだが
……
九州男児
としての
めんつも
あることだしな
よそ者に
あらしまわられ
とって……
ほっとく
わけにも
いかんのう……
ふっふ
ふふ……

サ"…
大将……
何も
大将が
やるまでも
ありませんよ
……

炎か……
へい……
ケーイッ……
だれでも
かまわん
どうせっ
おのれら全部
万吉親分の
子分になって
もらうでなー

ふふ……
へっへへへ……

なんなら
てめえら
全部……
いっぺんに
かかって
きさせて
え～～っ……

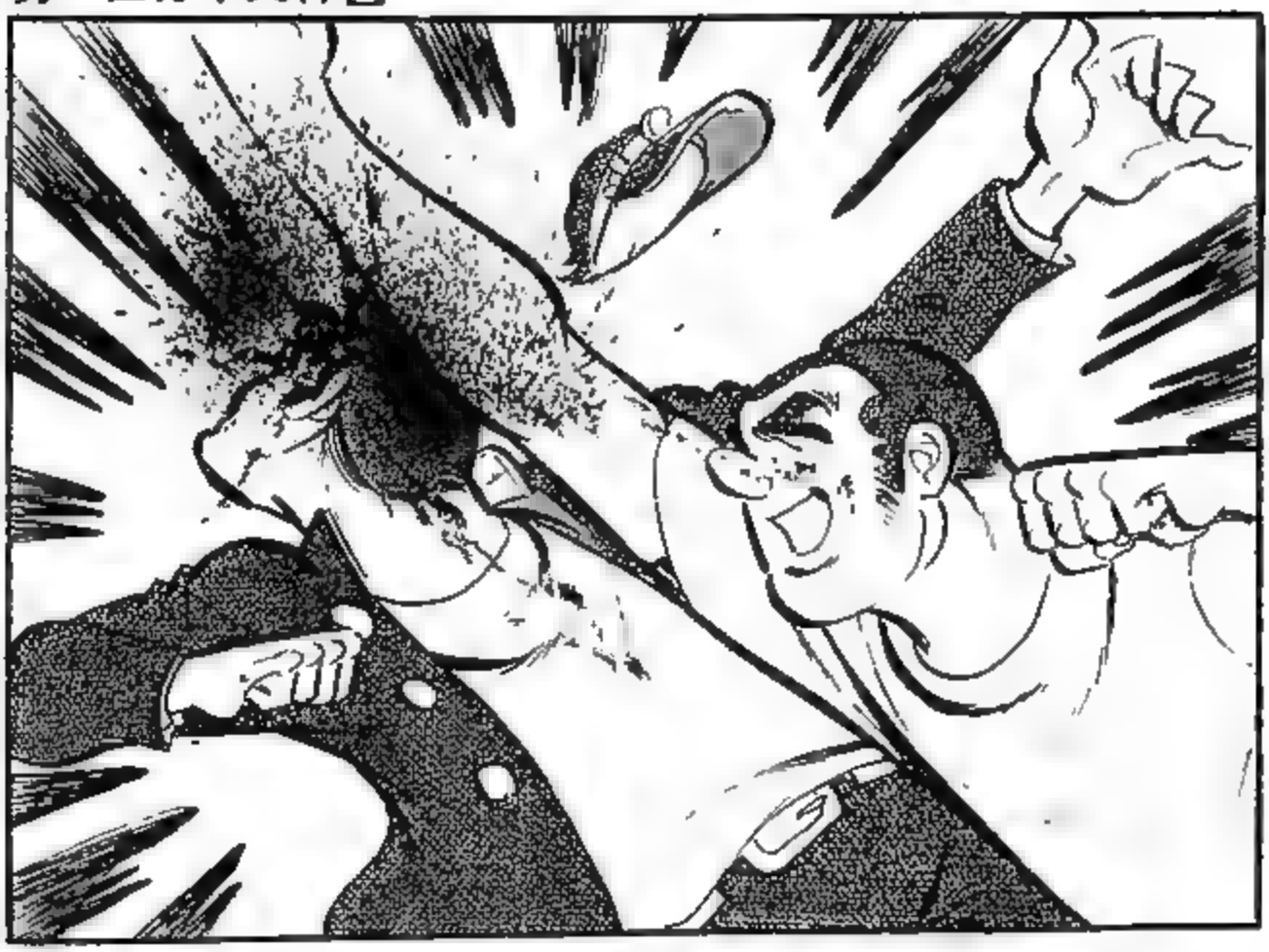
ふふ……

大将……
まさか
大将が……

はっははは
はは……
手を出すな
おまえら

じゃかましいっ

はっはははっはは



うわーっ
兄いっ
綱村(つなひら)の
兄いっ!!

ゴホ……

九州男児・菊村の巻

う……
あっ……
気がつき
はったで……
う……
兄いっ
……
どっ……
どない
したんや……
わっ……
わいは……

そっ……
それが
……
たった
一発で……
やっ……
奴らは……
へい……
帰りました
で……
なにい
～～っ
アホン
ダラー
わっ
げっ
おんどれ
らあ――っ

帰っただと〜〜〜〜〜っ
なぜ帰したんじゃい…
わいが ぶちのめされたからといって……
おめおめ帰す奴がどこにある
おんどれらそれでも万吉一家(まんきちいっか)け――っ
そっ……それが
それがもへったくれもあるかい!!
ちがいまんわ……わいらも万吉一家(まんきちいっか)や……
かなわんまでもやったりましたんじゃ……

しっ……
しかし……
兄いっ
綱村の
兄いっ
おんど
れ〜〜っ
くそ
——っ
よさん
かっ!!

おぬしらあ
これ以上
ハジを
さらして
なっ…
なんや
と～～～
親分に
心配　かけ
させたいのかっ
わからん
のか……

おはんら…
万吉親分の
ことは
好きだな…
あっ……
あったり
まえじゃ…

おはんらが
親分を
思うように
……
万吉どんも
また
おはんらを
心配しとる…
うっ
うう
……

おはんらが
ケガを
してみい
……
それこそ
万吉(まきち)どん
泣いて
悲しむで……

わかったら
むだな
ことは
やめいっ

その大将
急所は
はずしてある…
すぐ 気が
つくはずだ
ようく
かいほう
してやれ

ザッザッ
ザッ

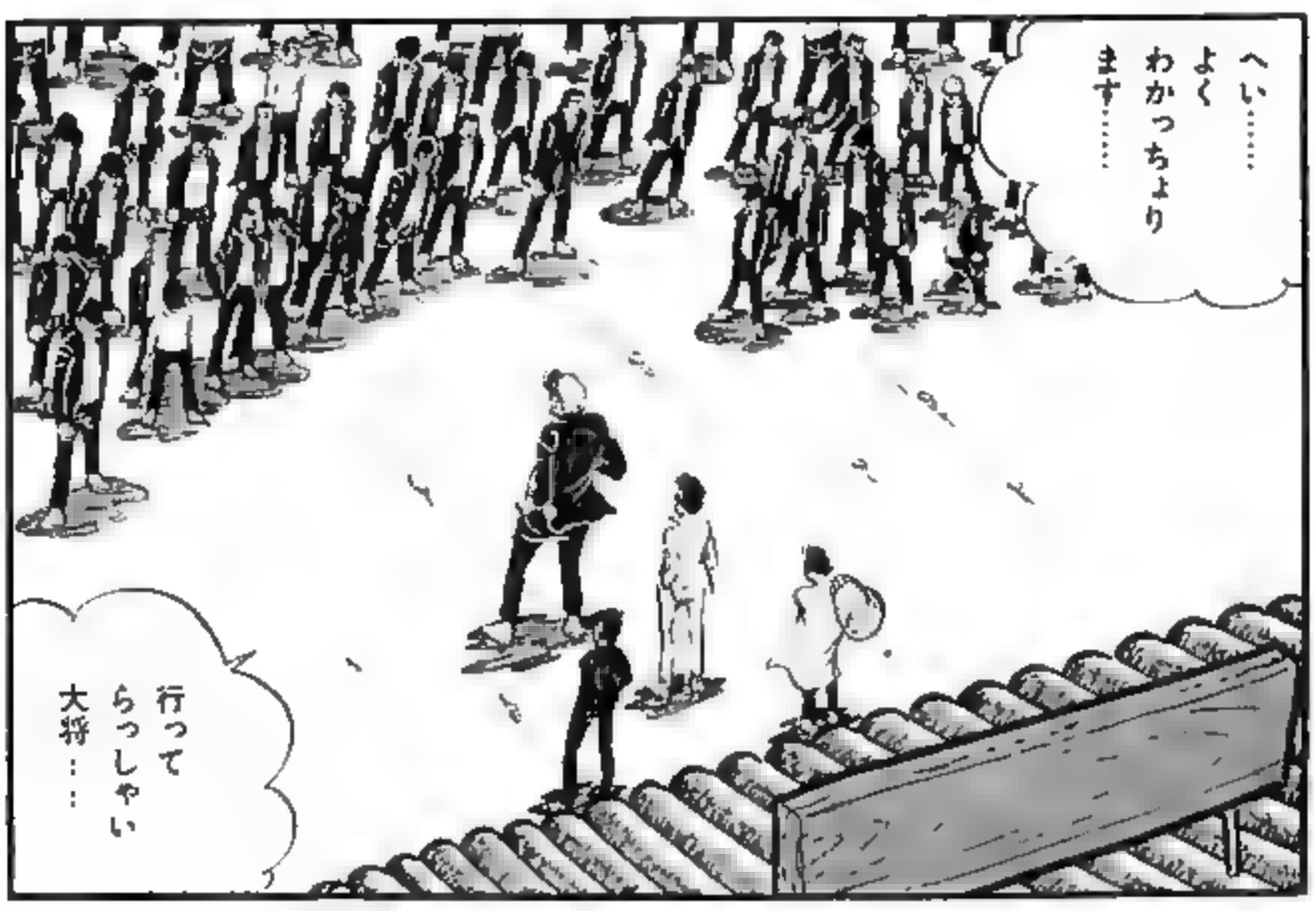
アホめが
それで…
かんたんに
まるめこまれた
ちゅうのんけ…

あかん……
へっ…へい……
やはり広いでえ……
おっとろしい男がおる……

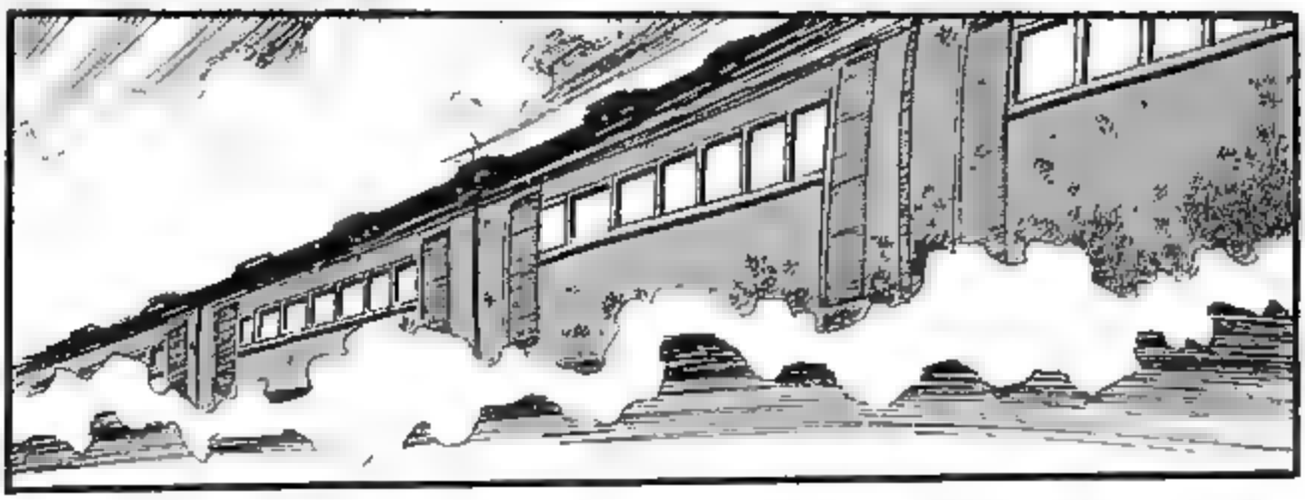
はだかだ……奴をくどきおとすにゃ…
まっぱだかになる以外あれへん……

保井世馬尺駅

ええかあ
――っ
わいの
るすの間
……
けっして
もめごとは
おこしたら
あかんど――っ


へい……
よく
わかっちょり
ます……
行って
らっしゃい
大将……

土佐の源蔵：
まんじゅう屋藤助
どんごろすのジェンマ：
へっ へへへ…
けったいな連中ばかりだがよ…
どいつもこいつも男っぽい奴ばかりだ
こいつらをつれていま帰るぜ…
万吉親分…



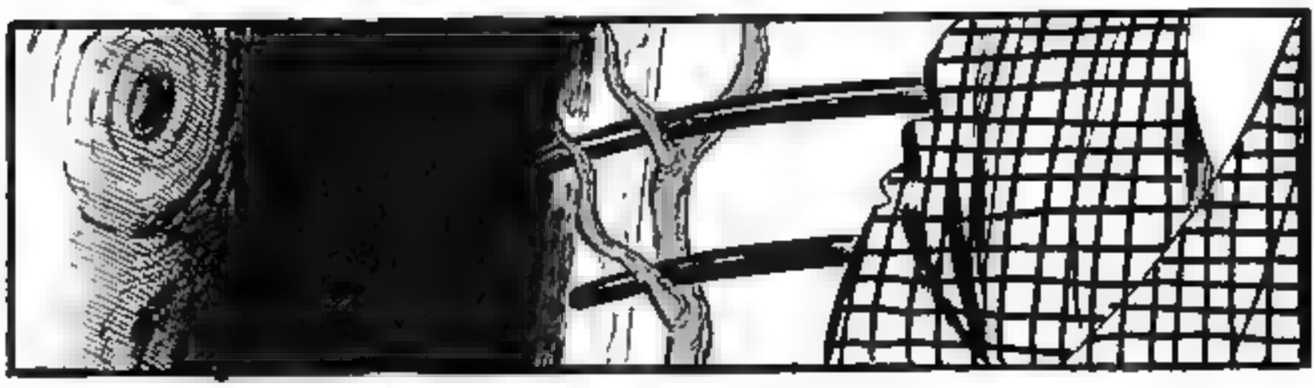
戸川万吉か……
ふっふふくだらん奴だったらなぐり殺してやる

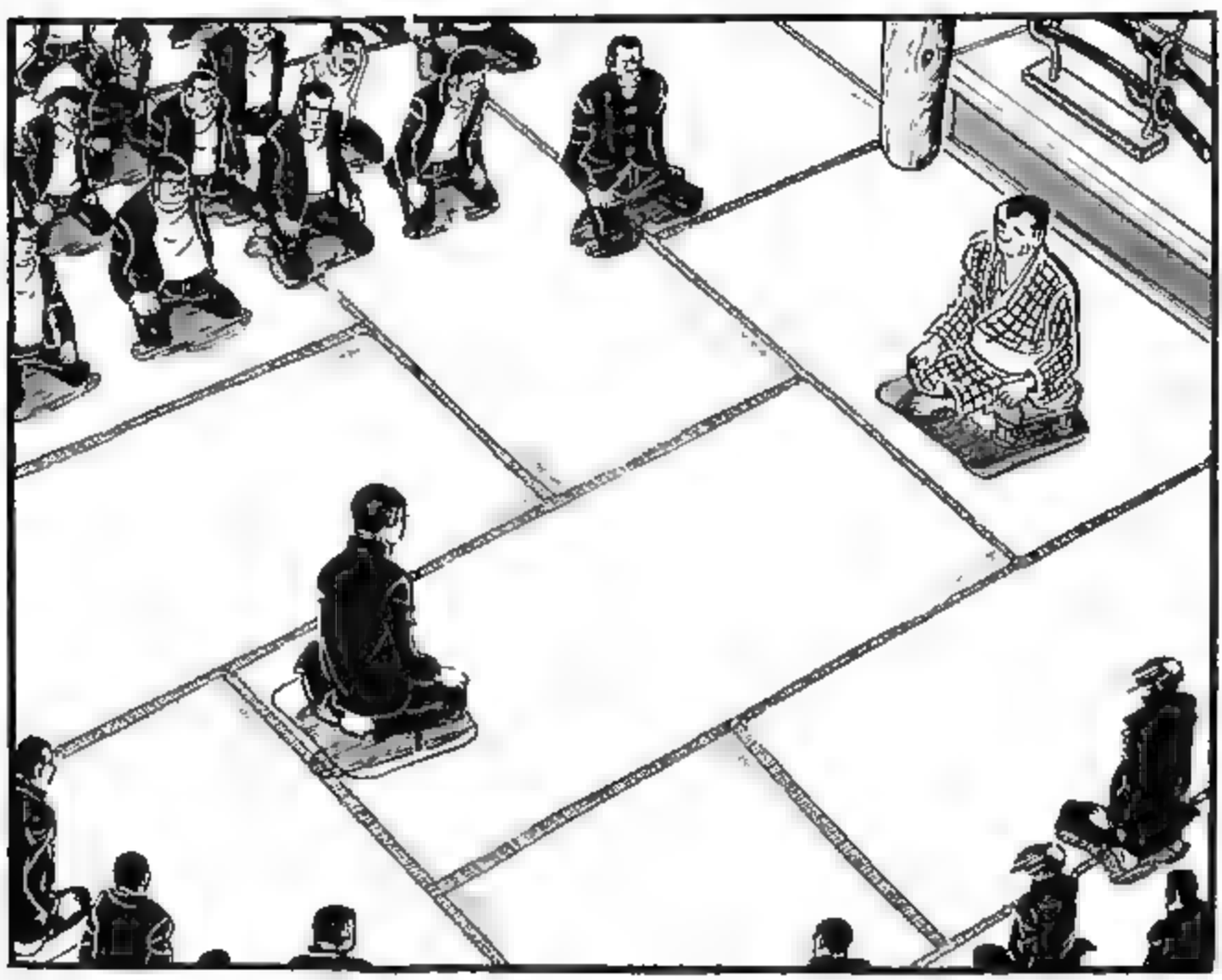
へっへへへこれで 万吉のところへ行けば…
とうぶん食いっぱぐれはねえ……

おれは……あくまで一匹オオカミだ……
ヘソまがりなんだよおれは……ふふふ……

こいつらいっぺんに万吉親分にいかれる
まったくみものだぜへっへへへ……

菊村





ふふ……
大将……
あんた　また
赤っぱじを
かきに
きたのかい
……
へっへへ
へへ

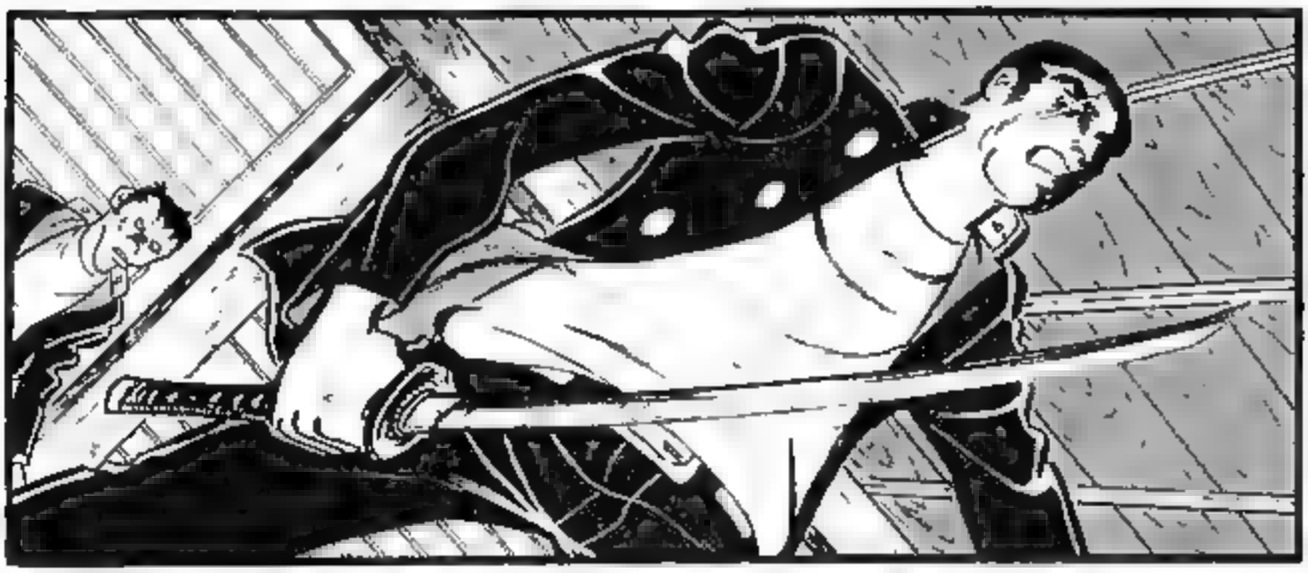
なにもしらん
井の中の
かわずが
大海へ
でてきて
おぼれ死にか
ふふ……
いや…
海の水の
からさを
しらなかった
ちゅうわけじゃい
かわいそうに…
ほれ……
ふるえとる
ぜ……

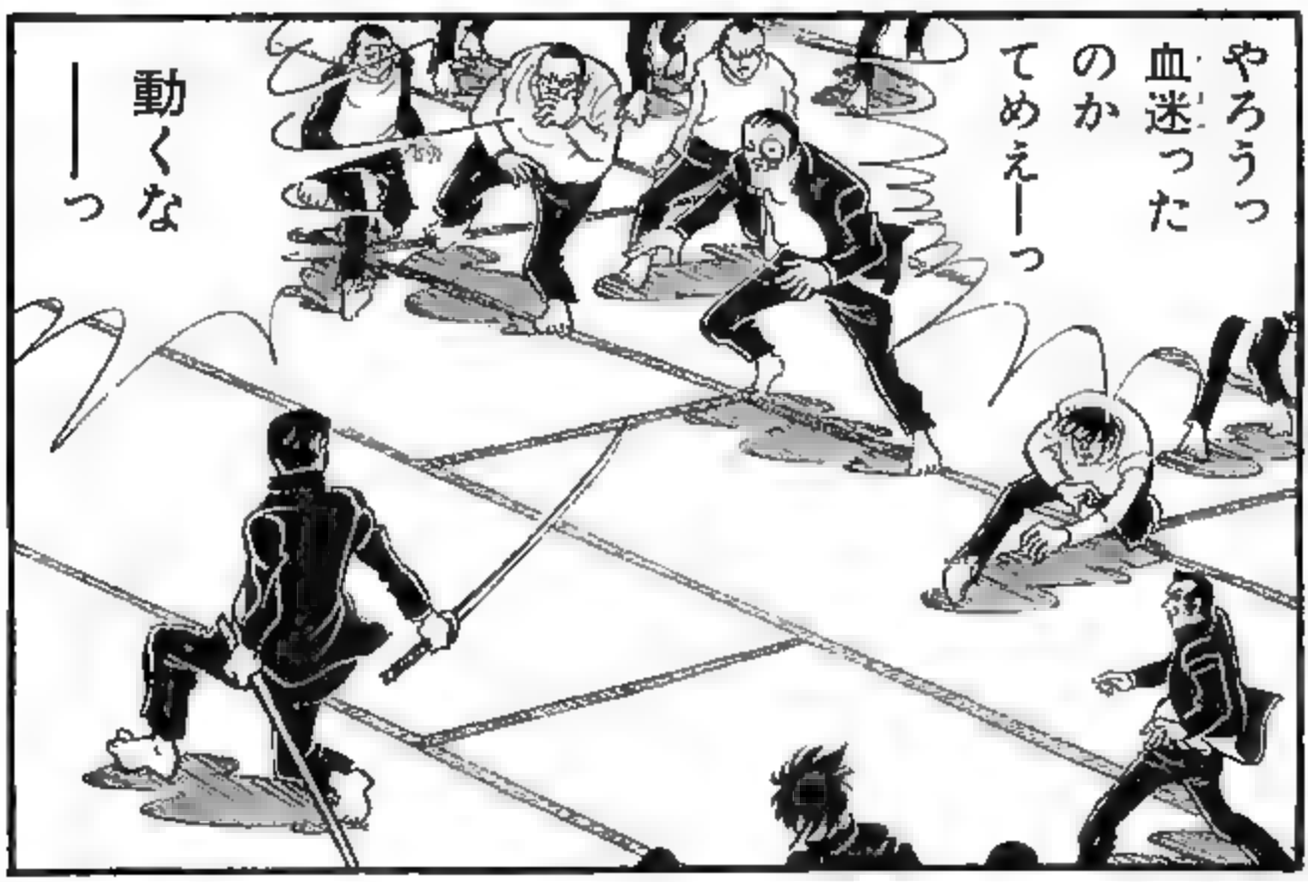
うわあ
ははは
ぎゃっ
ははは

どうしたほれっ……
あらためてなぐり込みにきたんじゃろっ
ふるえとってどうするんじゃい
ラッ…
よさんかっ
へっ…へい……
クッ……このやろうっ……

のう 綱村はん とか……
わしらはなにも 自分から どうの こうの しようと いう気持ちは まったくない！
だが ……
自分たちの 領域を 荒されれば それを はいせきする 以外あるまい…
他を 攻撃も しなければ 攻撃も させない…
九州の 男どもは 他に力をかすのは きらいだ 九州は九州だけで いいのだ……
帰って 万吉どんに そうつたえて くれ……
ふっふふ ……
ふふ……

ごめん!!
あっ…
やっ…
やろうっ
てっ…
てめえ
——っ




やろうっ
血迷ったのか
てめえーっ
動くな
――っ

どうしても……

はあ……
はあ……

わしを
万吉の子分に
したいのか
……
ああ
……

万吉親分は…
おれ達に
できねえ
どえらいことを
やろうと
してはる…
しかも……
おれ達
はんぱ者の
悪たれどもと
いっしょにだ……

わいは
万吉親分の
やろうとして
はることを
助けて
行きたい
どこまで
行けるもんか
とことんまで
ついて行きたい

そのため
そのための
……

これが
わいのかくご
なんじゃいっ…

うわ——っ
きっ
きさま——っ
ド
ズ
たっ…
たのむ…

こっ・こ
これの
かわりに
……
まっ・
万吉親分に・
ちっ…ちち
力をかして
やってくれ～～～っ

たっ…たた
たのむ…

きっ…
菊村
はん……

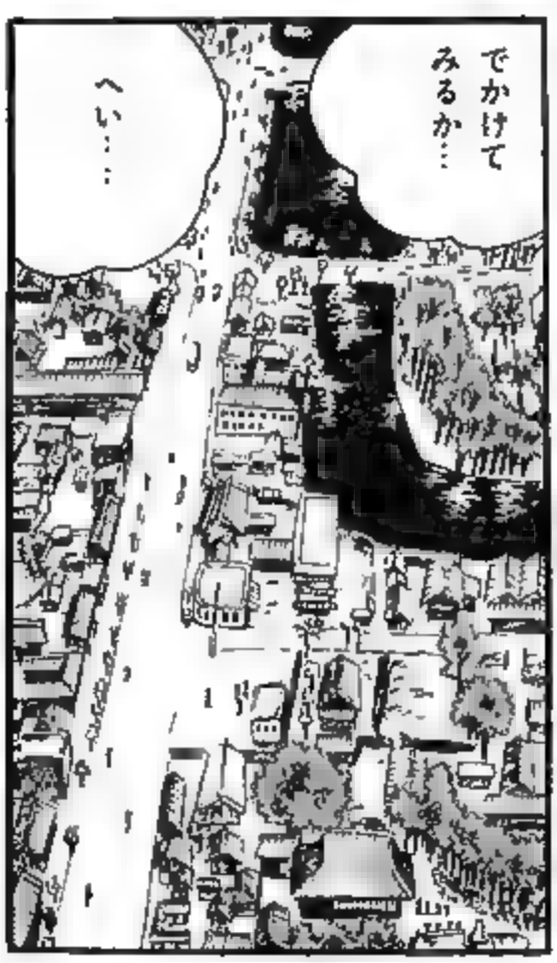
ガタッ
どうだ……
へい……早く血どめをしたもんでだいじょうぶだそうです
いま…眠りました…
そうか……
ふっふ…
まいったのう～～～しかし…
へい…

おまえら
わしのために
腕を 一本
おとせるか
……
まあ……
むりで
しょうね……

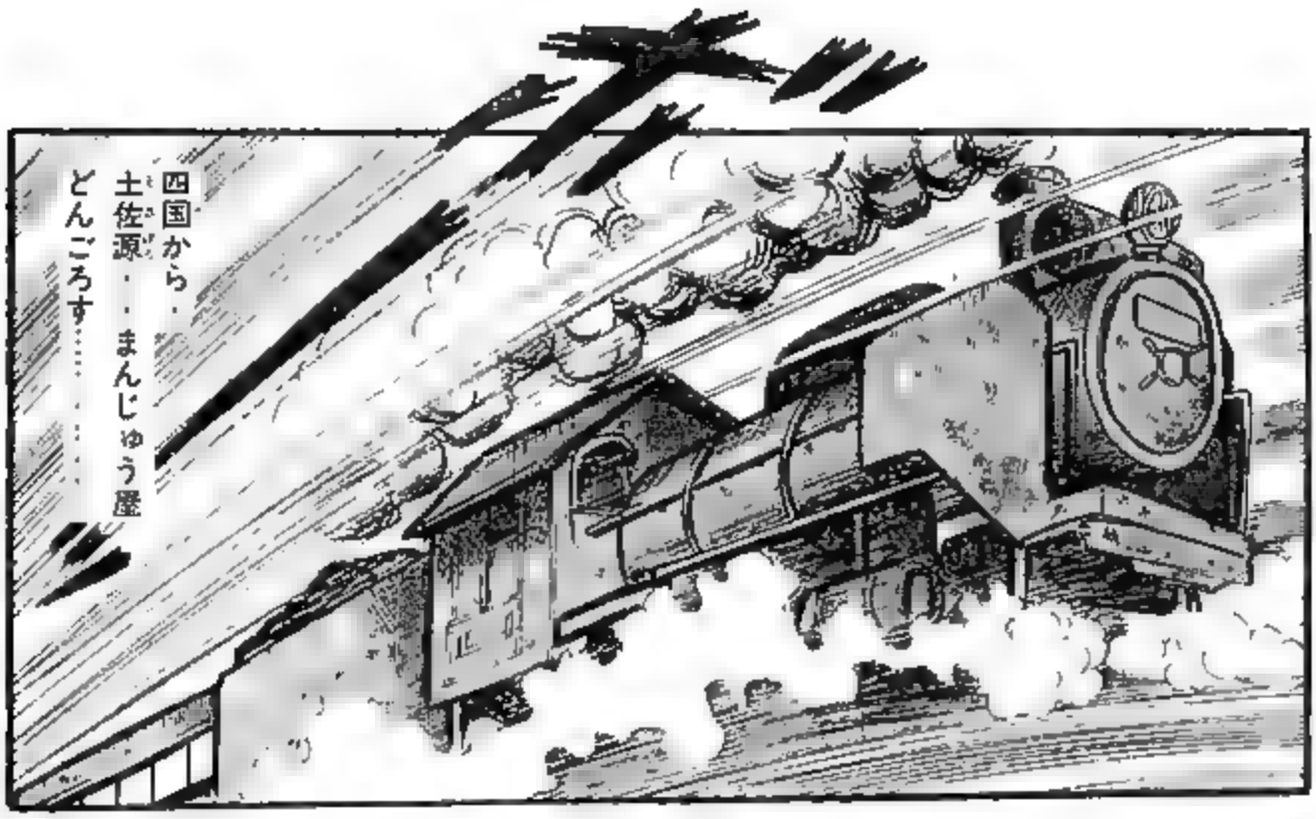
はっきり
いうのう
……
はっはは
はは……

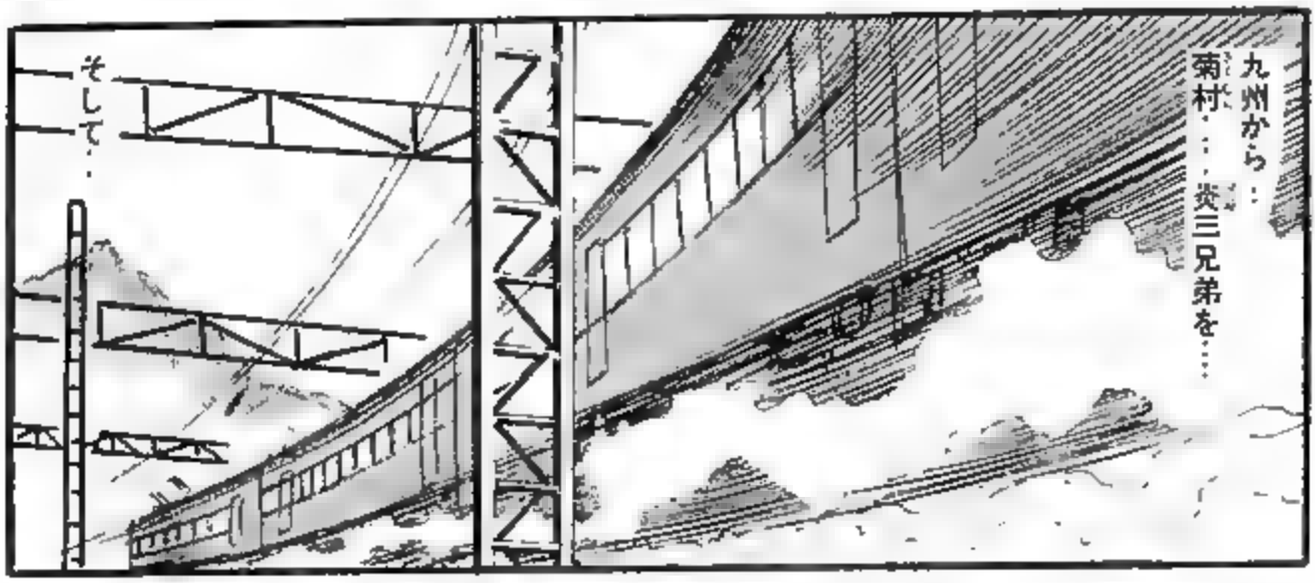
菊村さんは
かんぜん
すぎます…
わしらは
ただ たよる
だけですたい
……

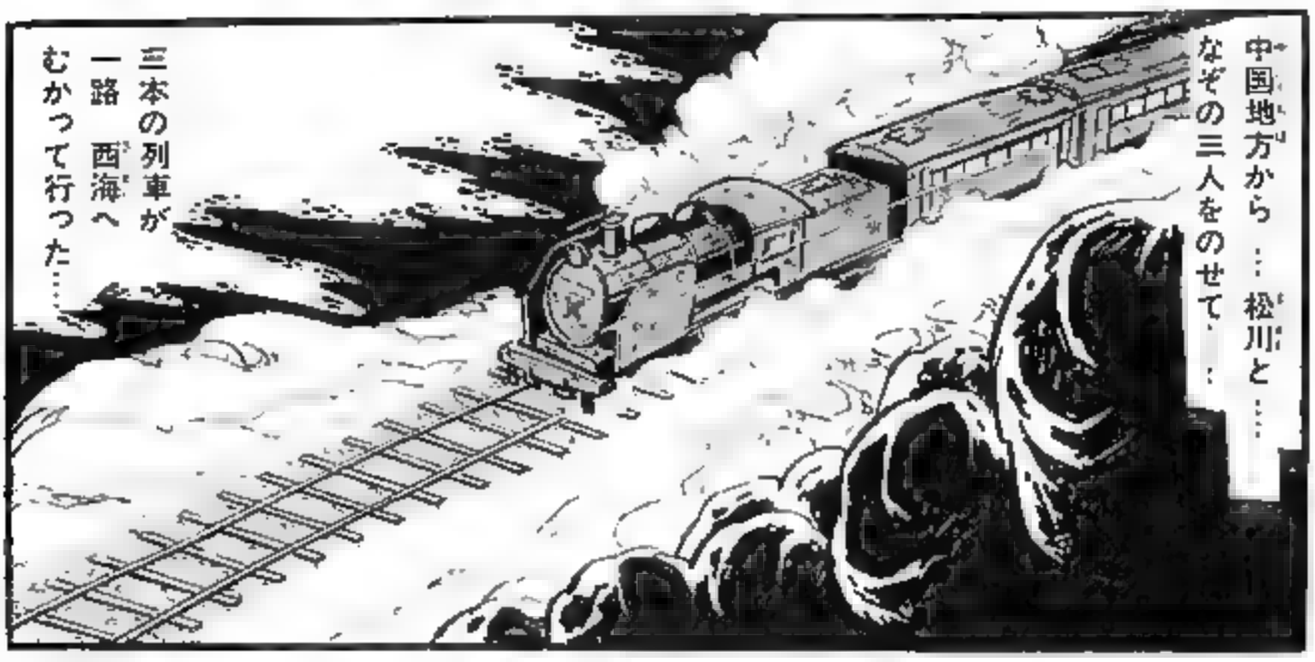
腕一本
落とすだけ
男を
もえさす奴
……


でかけて
みるか…
へい…

戸川万吉
……か


四国から・・
土佐源・・まんじゅう屋
どんごろす……


九州から・・
菊村・・・炎三兄弟を……
そして・・


中国地方から・・・松川と……
なぞの三人をのせて・・・
三本の列車が
一路 西海へ
むかって行った……

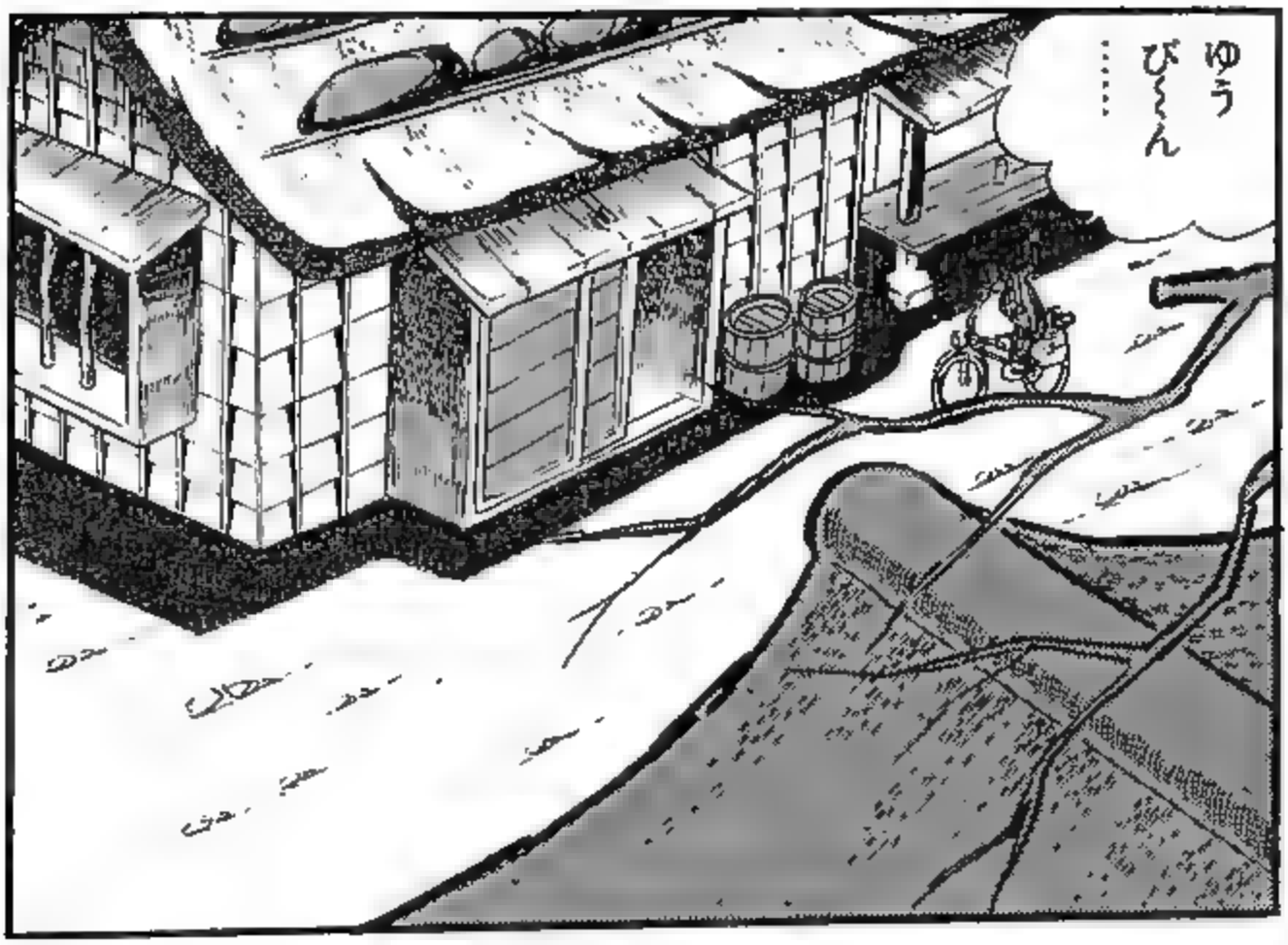
松川はん……
西海まで
あと
どのくらい
じゃい
へい……
三 四時間
ほどで……
ふむ
……
ふふふ
……
戸川
万吉……
か……
親分……
こいつらは
こいつらは
……

友子とあゆみの巻
ウヒ…
イタ…
イタタ…
だめよ
動いちゃあ
……
アホ…
せやかて
いたいで…
ウヒヒ
……
うわ～～っ
いやね～～っ
こんな
大きいの
出てきた
うひょ
ほんまや…

そういえば
耳くそ
ほじるの
ひさしぶり
やもんな……
いやね
――っ
ばか……
なんや
……
耳くそなんて…
もっと　ほかに
いい方ないの
……
なにいっとんね
耳くそは
耳の中のくそや
ほかになんちゅう
ね……
ふふ……
ははは
……
ね…
わたしのこと
ほんとに
好き……
ああ……

ほんとに……
しつこいな……
だったら……わたしだけのものになって……
どういうこっちゃ……
わたしのそばにいてくれるだけでいいの……
あなたは人に好かれすぎてる……
女の子というわけじゃなく男の子にも
もうなにもしないで……
わたしは……あなただけのものよ……
だから……あなたもわたしだけのものになってほしいの…

ねっ……
ふたりだけの
世界を
つくるのよ
……
わたしと
あなた
だけ……
ほかの人
なんて
……
女の子は
もちろん…
男の子も
絶対いや！
わたしたちの
世界には
入れたくない
……
あかん
……
あかんでえ…
親分……


ゆう
びぃ〜ん
……

親分…
綱村と
松川からや
…
親分
……
あっ……
ああ……
読んで
みい
……
まず……
綱村……
からの……
夕方には
西海へ つきます
菊村という
おっとろしい男を
つれて行きます

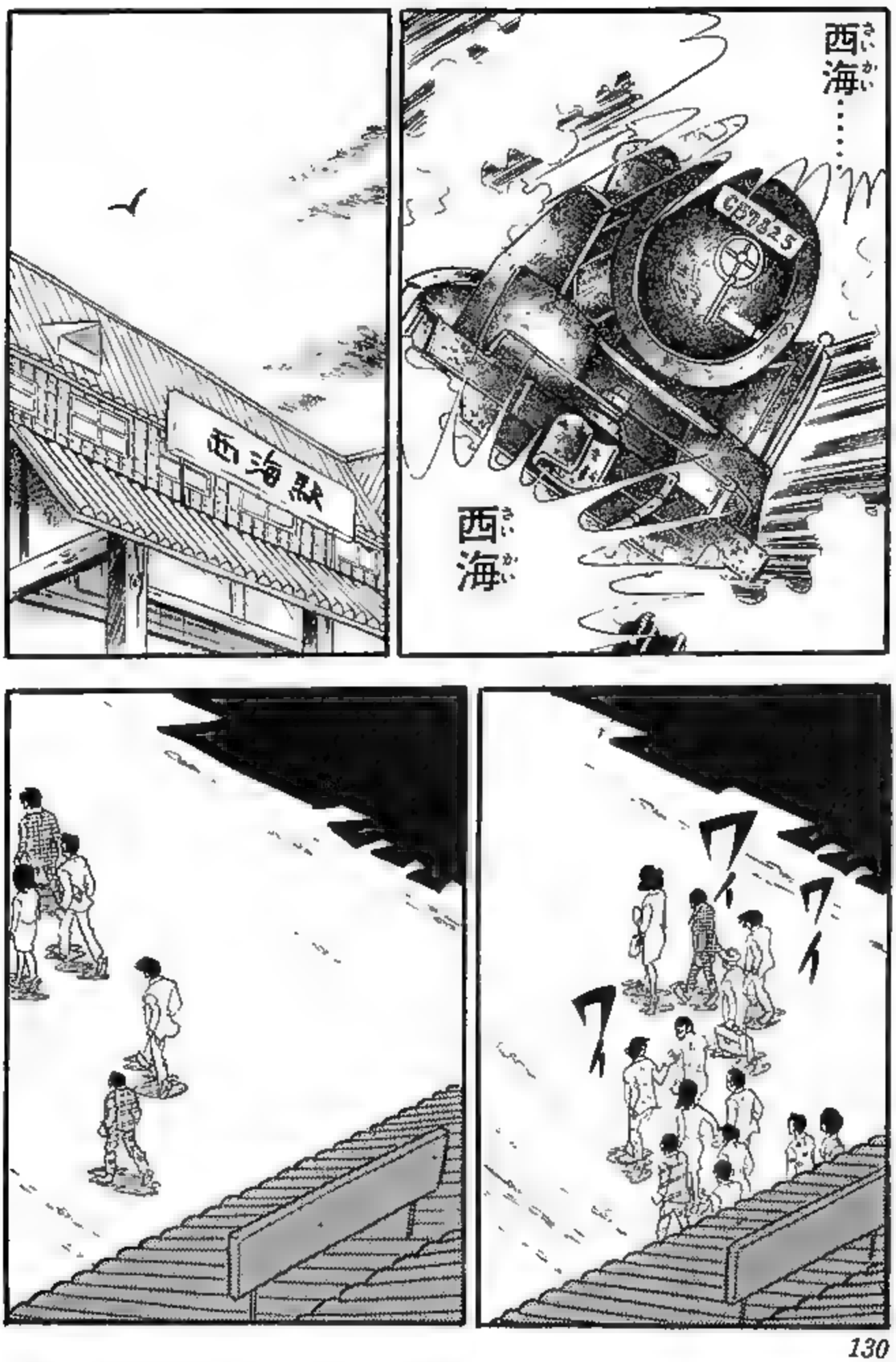
この男…はっきりいって親分以上の　人間かもしれまへんね……
わいらの腕では万吉親分の子分にまではもって行けまへんでした……
それで……とにかく会うだけ会ってくれということで　つれて行きます……
ですから…あとは親分しだいでんね……
ほんまにかいしょうのないことですんまへん……
万吉親分へ……
綱村鉄次……
つぎ……松川の……

もういい……
ええ……
おなじような
もんやろ……
ええで……
もう……
おお……

親分!!
親分……
あんた……
あんた……

いま
どういう時か
わかって
はるん
でっか
銀次かて……
綱村かて……
松川も……
みんな……
みんな……
親分の
命令で
行ったん
でっせ……
いまの
親分を
みたら……
みんなに
なぐり
とばされ
まっせえ
親分
――っ
!!
いうな
ラッパ
……
わかっとる
わい……
せやったら……
本気と
ちゃいまん
ねんな……

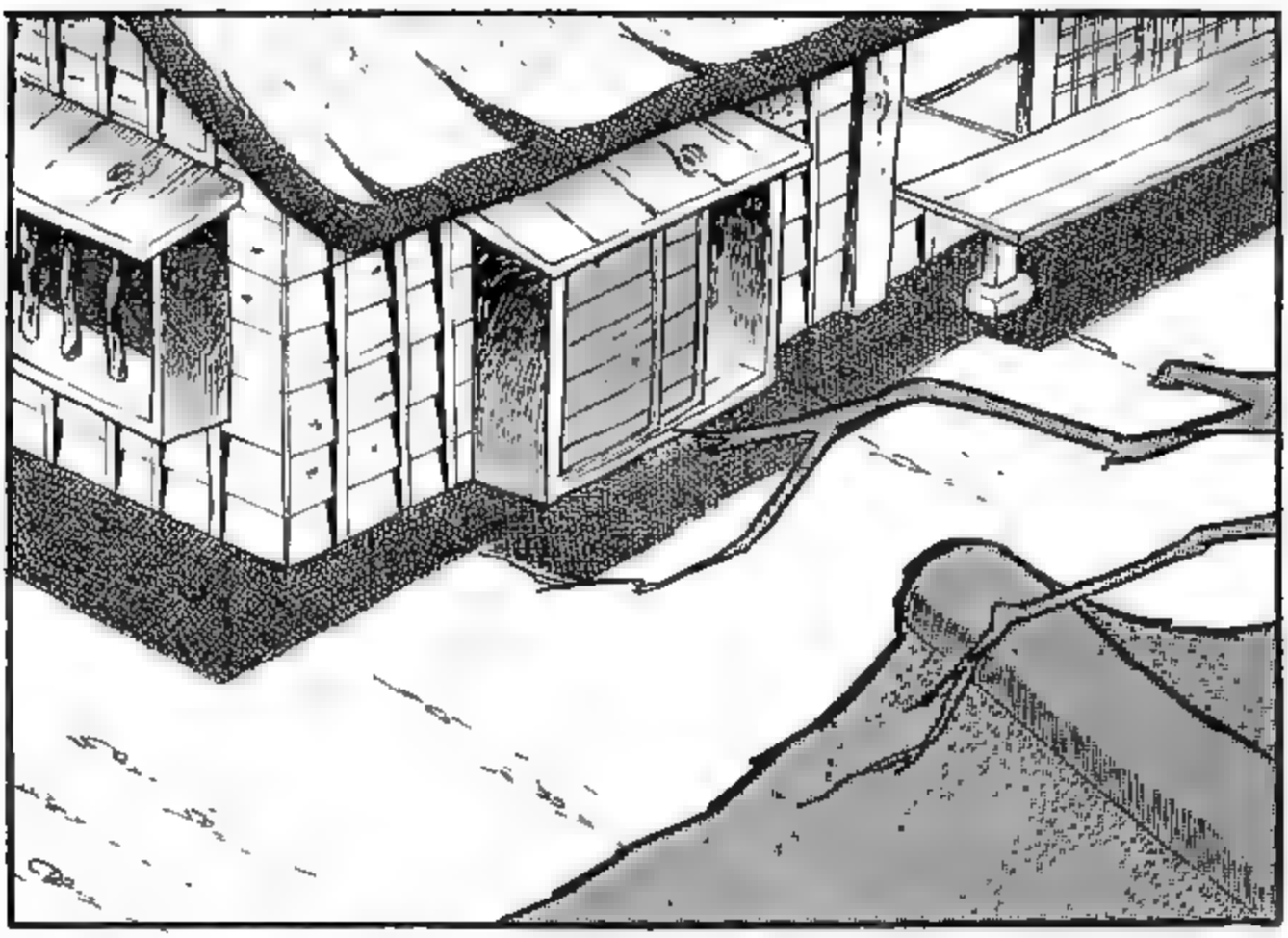
本気や……
本気でほれとる……
わかってるがどないしょうもあれへん……
一目ぼれじゃい……
友子ちゃんは…どないしまんね…友子ちゃんがかわいそうやおまへんか……


西海……
CPT825
西海
西海駅
ワイ
ワイ
ワイ

えへへ……
赤姫山
いらいね……
えっ ええ
……
少年院へ
行った時
会えなかった
もんね……
うれしい……
？
こわい
……
えっ……
？

わたし……
万吉さんに
会うのが
こわいの……
どうして
え～～～っ……
だってえ……
赤姫山の時から
ずっと
変だし……
万吉さん……
もう友子の
ことなんて……
ばかねぇ～～～っ
そんなこと
考えるの
よしなさい
よ……
わたしを
みて
みなさいよ
……
銀次の奴……
わたしの
ことなんか
全ぜん知らん
ぷりなんだから……
でも
いいんだ
……
わたしが
ガタガタして……
あいつに ふたん
かけるの
いやだしね
なにかあった時
ちょっとでも
わたしのこと
思い出して
くれればいいや
気楽な
もんよ……
えへへへ
……

さみしくない……
うん……
でも……しょうがないよ……
わたし……あき子ちゃんがうらやましい……
なにいってんのよ……
あなたはね……万吉さんにしっかりついてればいいのよ……



こんにちは……

はい……
ああっ!!

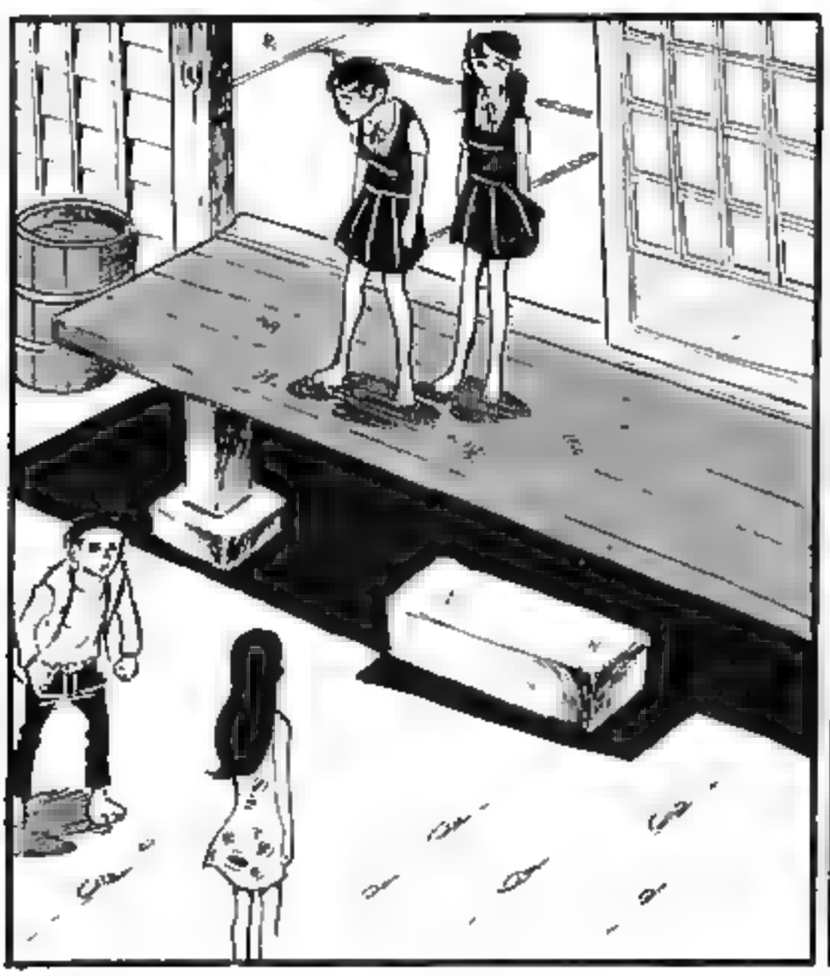
とっ……
とと……
友子ちゃん
……
おひさしぶりね
ラッパちゃん
……
やっ……
やあぁ……
ほんとう
……
でも すぐ
帰ってくるん
でしょう……
あっ……
ああ……
……
……

ごめんくださいっ
万吉さんいます……
うっ!!
あっ……あかん……
あら

帰れっ……
帰れえっ
帰らん
かいっ……
キャーッ
なにする
のよ……
おんどれ
なんぞ……
この家へ
くるなっ
なに
よ～～～っ

あっ……
ああ……
あんたは
……

あらっ…
こんにちは
……



万吉さん……
いないようね……
それじゃまた……
あとでくるわ……

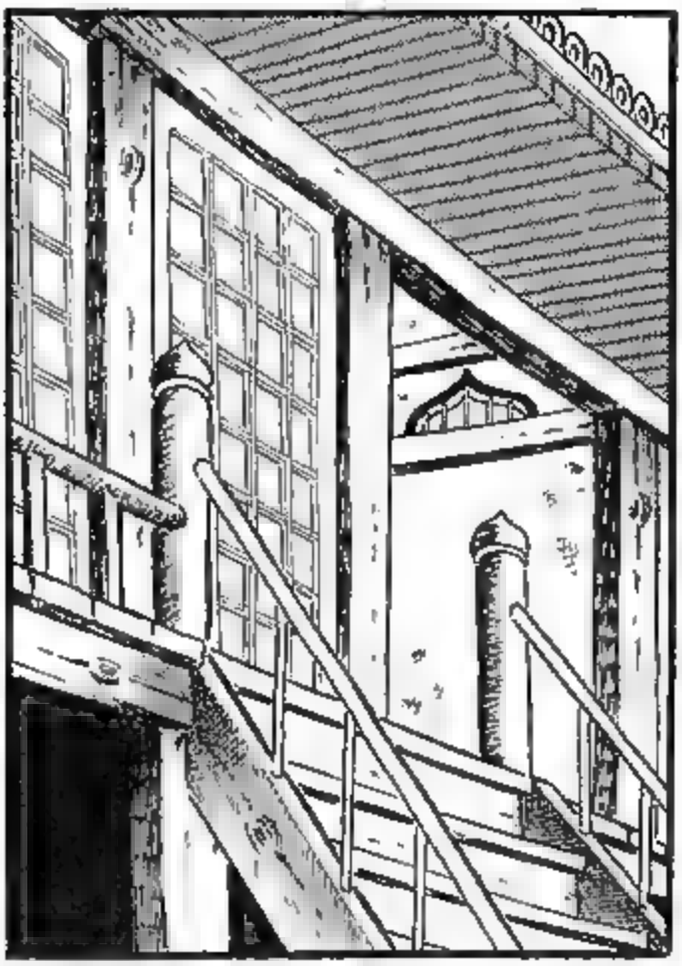
まっ……
まさか
万吉さんと…
あの子と……

しってるのか……
あいつのこと……

なっ……
なんやてえ
――っ!!

水戸のおばばの…
孫娘よ……

あっ……
あかん……
とんでも
ないことに
なりよった
……
こんなはず
では……
こんなことに
なるはずとは
ちゃあう
かったんじゃ
くっそ
くそっ……



こりゃあ…
万吉…
お茶でも
のまんかい
そんな所に
おったら
からだに
どくじゃぞ…

おしょう
はん…
わっ
わい…

はっはは…
どうなっ
とるんじゃ 万吉…
おぬしゃあ

ほんま
…
あかん
ね…

もう…いらん
なにもいらん…
あいつひとり
おったら
なにもいらんような
気になっとる……
つまり……
おぬしの　やろうと
していることも……
友だちも……
あの女の子
ひとりとひきかえに
してもよいと……
そう思っとると
いうのか……
その場に
なって
みなければ
わからんが
……
そうなん
じゃ……
それだけ
価値のある
おなごか
のう……
関係あれへん
価値も
なにも　どう
でもいい…
とにかく好きや…
それだけで　ええねん
……

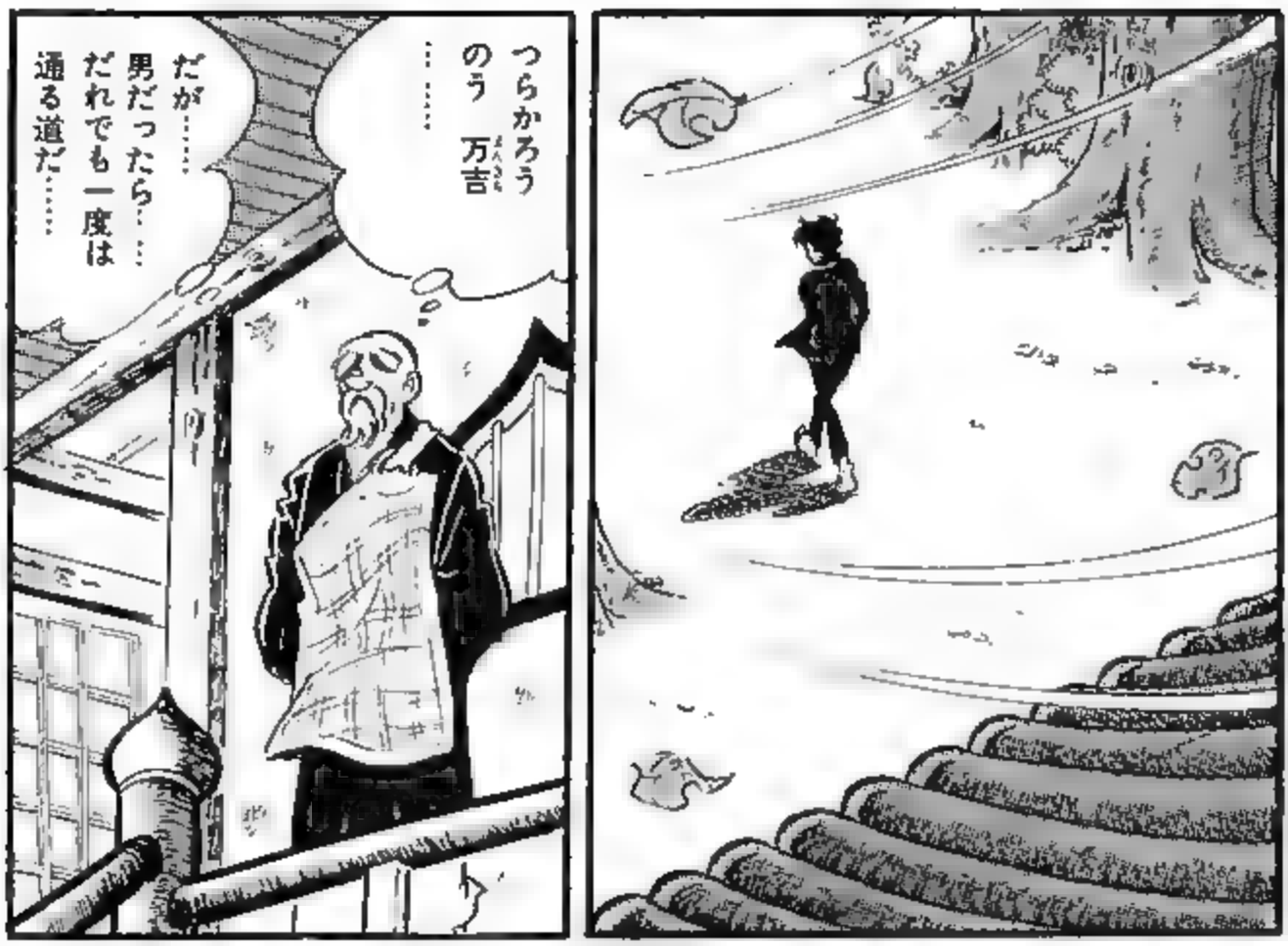
もし……
あいつが…
わいの一番の敵
水戸のばばあの
娘でも……
かまわん……
なぜ　好きに
なったか　よう
わからんのだが……
とっ……とにかく
ふふ……
おぬし
らしいのう……

なにか
どでかい
ことをやる
……
それは
もちろん
りっぱなこと
だ……
だが…ひとりの女性
に　命をかける
それも　男として
別にはずかしい
ことではない……

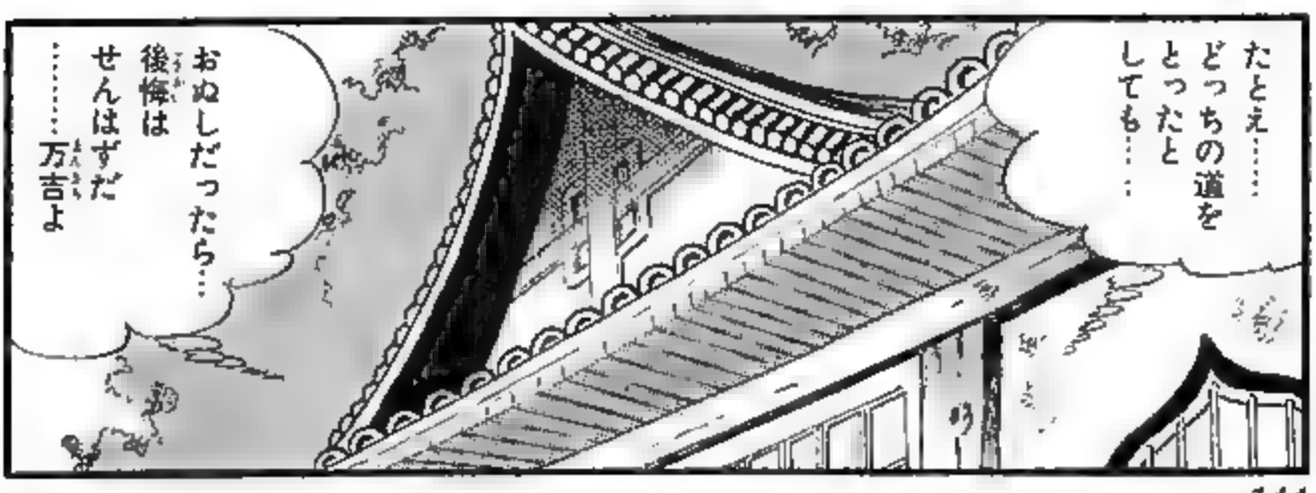
おぬしの
生き方
しだいじゃ
万吉
……

わからん……
とっ
とにかく……
むちゃくちゃじゃ…
さっぱり……
わからんのやあ…
〜〜〜〜っ……

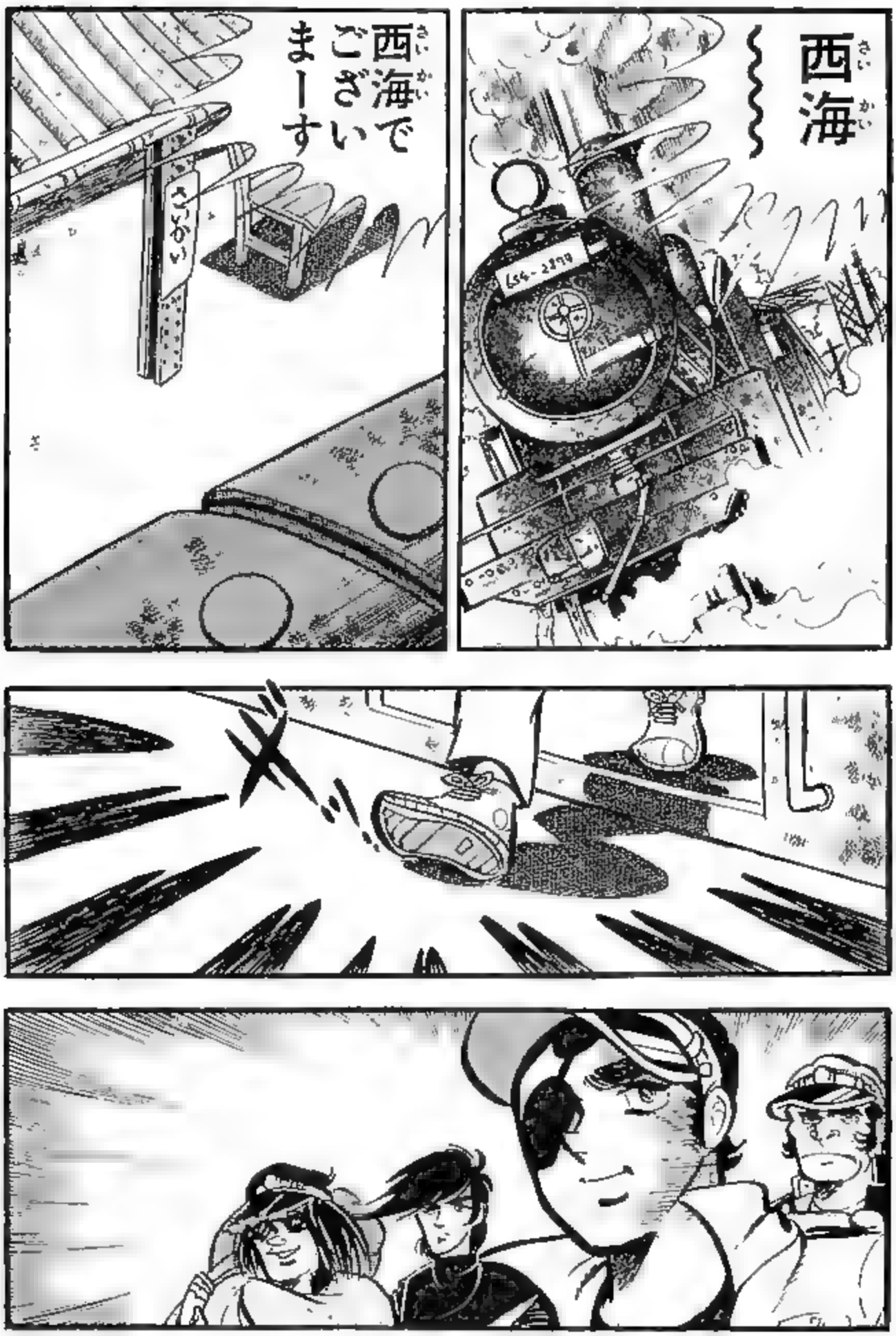
こんなはず
では……
こんなことに
なるはずでは
なかったんじゃ


つらかろうのう 万吉……
だが……男だったら……だれでも一度は通る道だ……

おぬしが本物の人間であればあるほど苦しむ……
男にとっておなごはそれだけ大きな存在じゃ……


たとえ……どっちの道をとったとしても……
おぬしだったら…後悔はせんはずだ……万吉よ

う……
まっ……
万吉(まんきち)さん
……
あ……
あゆみ
……


西海
西海でございまーす

銀次!!
ン……
よう…… 松川……
なんでえ? お前も…… この汽車に 乗ってたのかっ
ああ……

親分……
松川 銀次…… いまついたぜ…… 綱村も まもなくつくはずだ 万吉大将……

ふふふ……
へっへっへ へへ……

西海馬尺
わい…
わい…
うらぎり者
万吉の巻
かて分ソ
新しい
万吉一家

みんな…
でむかえ
ごくろう…
いま……
帰ってきた
ぜっ……

西海馬尺

まって……
とりあえず…
お寺へ
案内
しまっせ……
ひう…
そうして
もらおうか……
まてえ
……
駅
なんでえ
……
万吉…は
どうした……
きとらんのか…
ここに……
あっ……
ああ
……

こちら…
さん方は
わいが
つれてきた
…
ふふ…
高田や
…
川島…
野木
……
すっ…
すんまへん…
おっ…
親分…
いま…
そのちょっと
だいじな用事が
あって…
まあ…
ええやんけ…
そう安っぽく
でてこれん
ちゅうんやろ
……
大物やからな
万吉はん
……
ふっふふ…
西海

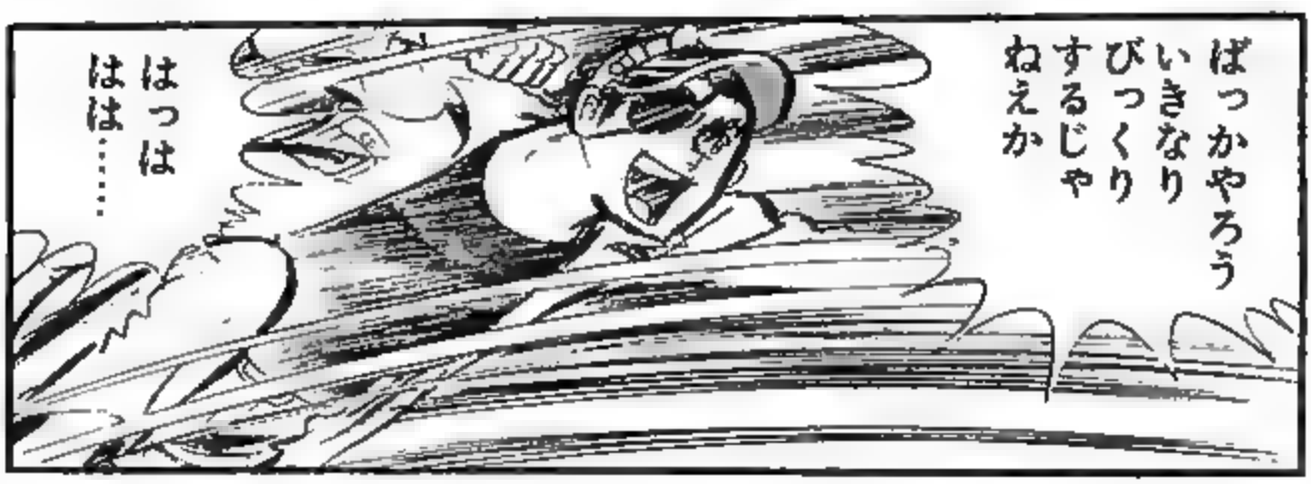
よさんかい
皮肉は
……
なにい
～～っ…

まっ……
まってくれよ
御両人
……
なにも
いまから
そんなふんい気
になるなよ
わしは
皮肉は
きらいじゃ
万吉どん…
虚勢をはって
でてこんのか
銀次はん

ちっ……
ちがう…
ぜったいに
ちがう…
親分は
そんな人間
じゃねえ!!
銀次
!!

なにを
もめとんじゃ
銀次
……

西海駅
綱村
……


ばっかやろう
いきなり
びっくり
するじゃ
ねえか
はっは
はは……

うっ
いつ 着いたんだ……
さっきの列車だ……
おっ……お前……
あ…ああ……
これか……
西一駅
はっはは……なんでもあれへん……
ちょっと…けがしちまって…

綱村……
……
なっ…
なんやあ
……
苦労したんだな…
お前…
あっ…
そうや…
しょうかい…
するわ……
こちら……
九州の菊村
はんに……
炎の御兄弟や
よろしく
……
こっ…
こちら
こそ…

たっ…
高田の
あにい……
九州の
きっ…
菊村だと……
大物をつれて
きたもん
だな……
やろう…
ふふ……
だい
じょうぶ
ですかね
……
ばかやろう
菊村
だろうと
万吉だろうと
……
ビビルこたあ
ねえ……
さあて
それじゃ
いくかっ
万吉
親分に
あいによ
――っ

おしょう
はん……
すんまへん
けど……
とうぶん……
ごやっかいに
なります
たい……

はっはは
……
どうせ
ボロ寺だ
気がねなど
せんと……
気楽に 使い
なされ……

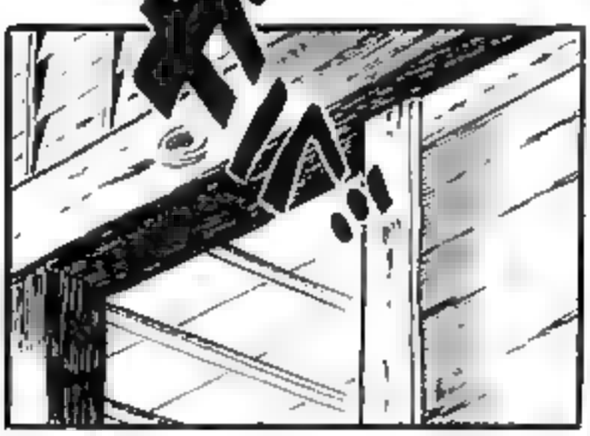
はっはは…
おしょうさんは……
なんだ……
じつは……そっ…その……
へへへ……
万吉親分が……あらわれる前に……
公正な所で親分の人間てえやつを…みんなに話しといてもらいてえんだ……
よかろう……
へっへへ……
たのむぜ…親分のすげえ所をよ……

!!親分

いっ……
いや……
このとおり
だす……
なんとか…
しとくんな
はれっ……

みんな…
みんなきて
お寺で　待って
まんねんで……
大将

親分……
行きまんねんな……



いやあっ
ははは
親分や……
やっぱり
わいの万吉
親分や
親分……
はよう
はよう……
ラッパ……

わいは いま… どんな 顔しとる…
ええ〜〜っ
人に へんな 感じを あたえる ような 顔しとる やろ…
わいは… いま… 笑えんのじゃ
みんなの ことを考えると 心のそこから 笑えんのじゃ
たとえ… うわべだけ つくろって みんなと あっても …
説得できるはず あれへん
自分の中味が 完全に 二本に わかれちまって る……

いまは…
あえん…
みんなに
あえんの
じゃあ…
ラッパ
〜〜っ
せやかて…
せやかて
親分〜〜っ
……
こんなこと
しとったら…
どないしま
んね…
これから
いったい…
万吉一家は
どない
なりまんねや
わからん…
わからんの
じゃいっ!!

わたし…
わたし
……
友子ちゃん
……
万吉さんに
なにもして
あげられ
ない……
いつもそうよ
いつも……なにも
してあげられ
ないの……
だから
万吉さん
わたしのこと
きらいに
なっちゃ
うの…
うう…
……
友子
ちゃん…
そんなんじゃ
ない……
そんなんじゃ
ないわよ…
ガラ
もう
がまん
できないわ
……
あき子
さん

万吉さん
ン……
!!
あっ
!!
みそこ
なったわよ
万吉さん
!!

あなたが
夢中に
なってる
女の子を
いったい
だれと思っ
てるの……
水戸(みと)の
おばばの
まご娘よ

なっ…
なにい
――っ

親分…
ほんまや……
ほんま
でんね
……

あなたのことを……すきだとか……
愛してるとかいってるかもしれない……
でも……
そんなこと……
全部うそっぱちよ
ずうずうしいっ!!
あなたのことだまそうとしているのよ
水戸のおばばにたのまれて
あなたを骨ぬきにしようとしているのよ
〜〜〜っ

あなたと
ふたりだけの
世界をつくり
たい……
もう　なにもしないで
わたしだけの
ものになって……
ああ
……
あゆみ
が……
おねがいよ
目をさまして
万吉さん
……
それで
なければ
友子ちゃんが
かわいそうよ
……

ちがうわ……

あっ……

ちがうのよ万吉さん……
あゆみ……

たしかに最初は
そうだった……

あなたをだまそうとしていたわ……
でも……でも……

あなたが…
あまりにも
たやすく
わたしを
信じて
くれた
みえも
なにも
つくらず…に…
そして…
あなたと
あっている
うちに……
真剣に
なっちゃった
の……
ほんとよ
好きよ…
ほんとに 好き
なのよ 万吉さん
まだ
だます気なの
あばずれっ
きゃあ
!!っ

まず
銀次!!
綱村!!
松川!!
へっ……
へい……
なんでんね
……
あらたまって
万吉は…
おぬしらを
うらぎり
おった……
おっ……
おしょう
……
そっ……
そらまた
……
なんちゅう
ことを……
万吉は
いま…
おぬしらの
ことを
忘れて……
小市民的な
男に
なろうとして
いる……

それが……万吉にとって……
いいか 悪いかわしにはわからん
だがおぬしらをうらぎったことは事実じゃ……
わかりやすくいえば……
ある女にふぬけにされおったわっ
なっ……なんだと――っ
ばっ……ばかな!!

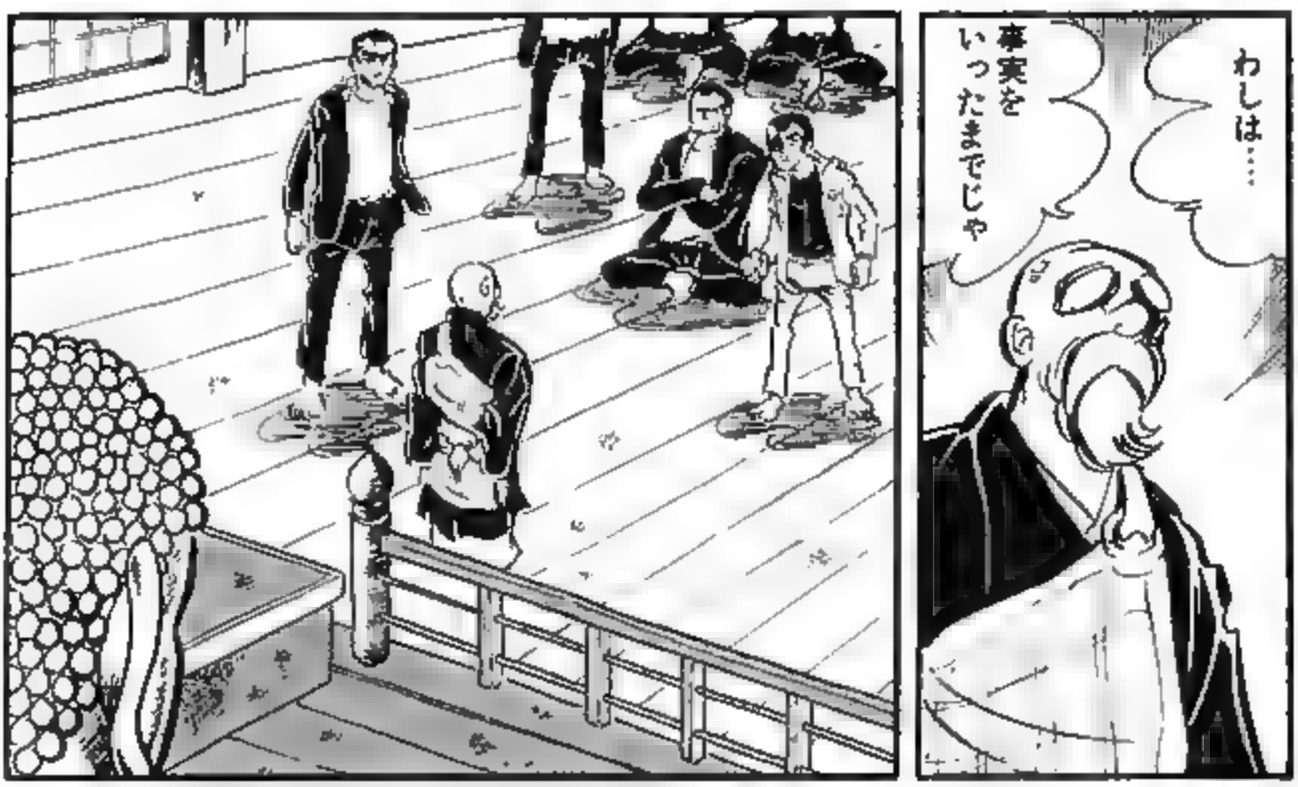
綱村怒るの巻

わあああ——っ
うっわーっああ
ううっ
ラッパッ——!!

ふふ……
女にふぬけ…か
話に……
なんねえぜこいつあ……
ふふ……いったい……
なんのつもりで…いやがるのか……
まったく……
ひでえ話だ……
まっ……まってくれ……
じゃかましいっ

どういう
りょうけん
じゃいっ
わしらは
そんな男に
あうために……
のこのこ　やって
きたんと
ちがうで……
ちっ……
ちがう……
親分は
そんな人間
じゃねえっ

おしょう――
なんかの
まちがいだな……
そうだろうが
おしょう――っ

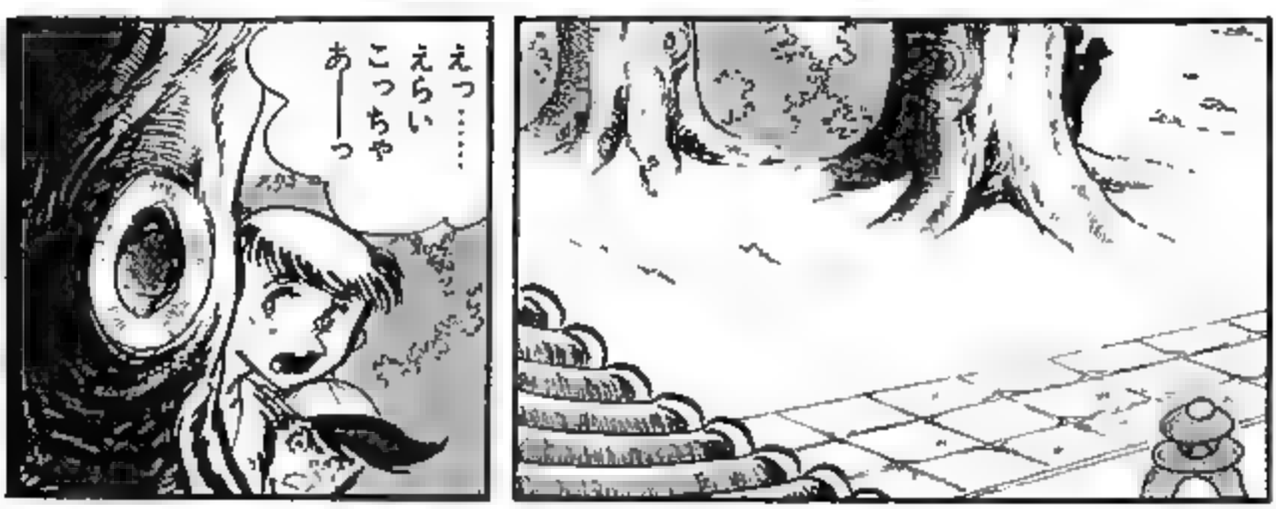

わしは……
事実を
いったまでじゃ

けえるぜ……
おりゃあ…
おれも
……
ふっふふ……
やりやすく
なって きや
がったぜ……

わしは
帰らん…
万吉を
なぐり
殺して
からにする
まっ…
まって
くれえ…
なっ
たっ
たのむ…
わいらが…
わいらが…
親分にあって
たしかめてみる
そっ…それで
もし…
おしょはんの
いうとおり
だったら
その時は
……
わいらが…
おとしまえを
つける…
それまで
それまで
まってくれ…
たっ…
たのむ
このとおりや…

た…
たのむ
…
ようみんな…
別だんいそぐ旅でもなし……

ふたりが万吉(まんきち)のおとしまえをつけるのを…
じっくりみててやるのもおもしれえんじゃねえのか……


えっ……
えらいこっちゃあ――っ

えらい
こっちゃ
えらい
こっちゃ
あーっ

ラッパちゃん
……
おっ……
親分は……
しっ……

しるかい
……
きよんねや…
銀次たちが
親分のところ
へ……
親分……
やられる……
やられてまう
でえ～～～～っ

メッタメタにやられた方がええねん
親分なんて
あんな親分なんて……やられた方がええねん……
フン……
ラッパちゃん…
いいきみや…
へへ…
えへへ…
わたし…しらせてくる…

友子ちゃん…
親分　いま
あいつと
いっしょやで……
みじめ
やんけ…
……
……
万吉さんが
やられる
方が……
もっと
いや……
くそっ
たれーっ
親分の
あほん
だら――っ

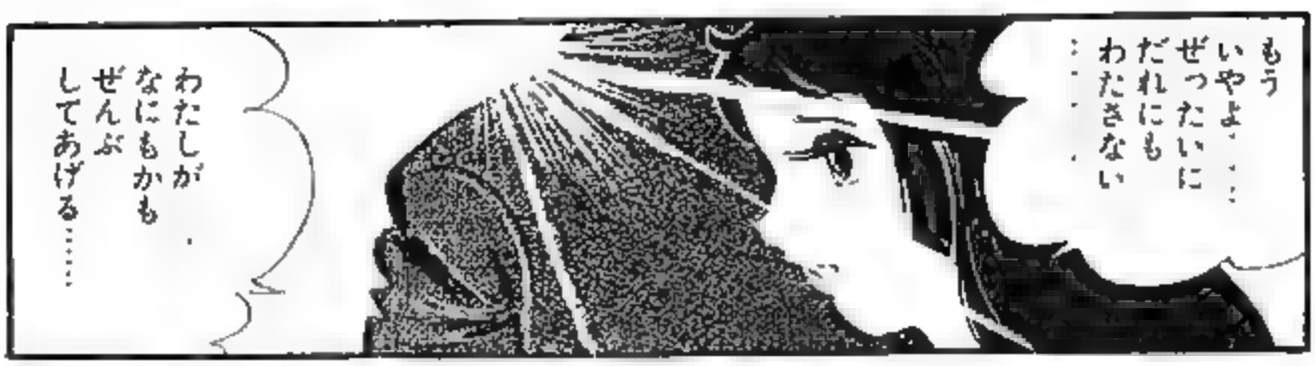
ボサ・・・
親分は
おるけっ
・・・・
銀次
綱村
あっ・・・
親分は
おるか 聞い
とるんじゃい
しっ・・・
しらん・・・
しらん
どお～～～っ
どうやら・・・
ほんとくせえ
で・・・・・
ああ
・・・・

万吉……

信じてくれるわねわたしを……
なぜ……そんなことを聞く……

ご……ごめんなさい……

あなたを好き……
だから……なおさらあなたをわたしひとりのものにしたい


もういやよ……ぜったいにだれにもわたさない……
わたしがなにもかもぜんぶしてあげる……

あなたひとりぐらいわたしがたべさせてあげるわ……

!!親分
ラッパ……
にげとくんなはれ……
はよう……にげとくんなはれな親分……
なっ……なんや……
銀次(ぎんじ)たちが……きまんね……
親分をぶっとばしに……

きたか……
親分!!
かくごはできとる……
まっ……万吉さん
大将……
あっ……

ああ……
ひさしぶりだなあ……
親分……
ああ……

綱村……
おまえ
左腕は……
へえ……
その……
ちょっと
……
……
……
親分……
こいつあ……
もちろん……
じょうだん
だよね……
親分が
女なんかに
本気で……
本気や……

おやぶん……
なにもいうな
なにも
いわんと
わいを
なぐり殺して
くれ……
お……
わいは……
おまえら
全部すてて…
にげようと
している
……
だが…
どうしても…
おまえらが…
わいは
わいは…
たのむ……
はりとばして
くれ……
それを
きっかけに
わいを
見すててくれ…

たのむ～～～
銀次……
綱村……
しっ
しんじらん
ねえ……
信じられ
ねえよ
――っ
こんな
ばかな
ことは
親分……
おりゃあ
銀次だぜっ
なんでもよう～～
いっしょに
やってきた
銀次だぜ

台風から
昭和ハウスを
まもった時も
赤姫山の時だって
……
特少にまで
いっしょに行った
銀次だぜ　おりゃあーっ
それを……
こんなアマっ子
一匹のために!!
うそだなっ
うっ……う
うそに
きまってる
よな——っ
大将……
ゆ……
ゆるしてくれ～っ
銀次よお～～～っ

うわあ
ああ
――っ
ガッ!!
ぎゃ
――っ
万吉さん……
すっこんでろいっ
ドッ
きゃあ!!

親分……思いだしてくれっ……!!
こっ……こぶしのかたさをきしみを……
おれたちはそれでむすびついた仲じゃねえかっ
はあ はあ
ぬすぶたそっ!!
この女が悪いんだあ——っ
きゃ——っ

よせ……銀次……わいをどうしようとかまわん……
だが……こいつにだけは手をだすなっ
大将……
おっ……お……おれたちより……そんなに大事なのか……
おれたちより～～～っ
くそ――っ

うわーっ
うわーああう
やめてーっ
万吉さんをやるならわたしをやってー
おねがいよーっ
うわああーっ
きゃーっ

うおお!!っ
ガゾン
ドゴ
おうお!!

本気じゃねえ
～～～～～～
おれっちは
本気で　なぐって
るんじゃねえっ

やめて
やめて
え――っ
おれが……
おれが　どんな
気持ちで　なぐって
るか　わかるだろ
親分!!

おねがい……
やるんなら
わたしを
やって
え――っ
てめえなんざ
かんけいねえ
んだ!!
じゃか
ましい
――っ
でてこいっ
なぜ
こそこそ
見て
いやがる

ちいっと
見物させて
もらおうと
思ってな
うらぎった…
てめえらの
大将を……

どう……
始末つける
かよ……

できねえな…

おれたちにわたせ！万吉を…

信用できんのかわしらを……